令和元年度　改訂版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

中学校・高等学校

英語

令 和 元 年 １ ２ 月
岩手県立総合教育センター
教 科 領 域 教 育 担 当

本ガイドブックの構成

Ⅰ　外国語科において育成を目指す資質・能力　「何ができるようになるか」

　まずは，外国語科において育成を目指す資質・能力とはどういうものでしょうか。そのことを理解することが必要です。
　その資質・能力の「三つの柱」は教科目標にどのように反映されているのでしょうか。しっかりと教科目標を読み解くことが授業改善の第一歩ではないかと考えます。

１　育成を目指す資質・能力……………………………………5

２　外国語科において育成を目指す資質・能力……………………………7

３　外国語科において育成を目指す資質・能力と教科目標…………………9

Ⅱ　外国語科における学習・指導の改善・充実　「どのように学ぶか」

　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）をしていくにあたっての考え方をまとめました。
　「主体的・対話的で深い学び」とはどういうものなのか，深い学びの鍵となる「見方・考え方」とはどのようなものか，そしてその学びの実現に向けてどのような手立てを組んでいけばよいのかなどを整理しました。
　また，「主体的・対話的で深い学び」の実現にあたっては「単元」が大きな意味をもちます。資質・能力を育成する学習過程を整理し，単元構想シートを活用した外国語科授業の単元づくりについて紹介します。

１　「主体的・対話的で深い学び」の実現

（１）「主体的・対話的で深い学び」の内容………………………………11

（２）外国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な手立て…12

（３）外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」…………13

２　学びの過程と単元構想

（１）外国語科における資質・能力を育成する学習過程……………………15

（２）ゴール像から逆算した単元構想……………………………………17

（３）外国語科における資質・能力の育成を目指した単元構想……………19

（４）資質・能力を育成する単元構想の実現を目指した「単元構想シート」の活用…… 21

（５）資質・能力を育成する単元構想の生徒との共有を目指した「振り返りシート」の活用…23

Ⅲ　外国語科における学習評価の充実　　「何が身に付いたか」

今回の改訂においては，全ての教科等において，教育目標や内容を，資質・能力の「三つの柱」に基づき再整理しています。このことに伴い，評価の観点も現行から変更になります。

そこで，学習評価に対する基本的な考え方を整理しました。

現行からの変更となる外国語科の評価の観点とその趣旨についても，中央教育審議会教育課程企画特別部会外国語ワーキンググループによる「外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ（以下「外国語ＷＧ審議のまとめ」という）」（2016）や文部科学省初等中等教育局教育課程課から出された「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（2019）等の内容をもとにまとめました。

１　学習評価に対する基本的な考え……25
２　評価の基本的な枠組み……27
３　外国語科の評価の観点及びその趣旨……29
４　外国語科におけるパフォーマンス課題とルーブリック……31

Ⅳ　実践事例

平成 29 年度の実践について紹介します。奥州市立江刺第一中学校，岩手県立岩泉高等学校に協力をいただき授業実践を行っております。

中学校は２年生で，高等学校は１年生で実践を行いました。

事例１　中学校第２学年（平成 29 年７月実施）……33
事例２　中学校第２学年（平成 29 年８・９月実施）……42
事例３　高等学校第１学年（平成 29 年７月実施）……53
事例４　高等学校第１学年（平成 29 年 10 月実施）……61

おわりに……73

引用文献，参考文献及び参考 Web ページ……74

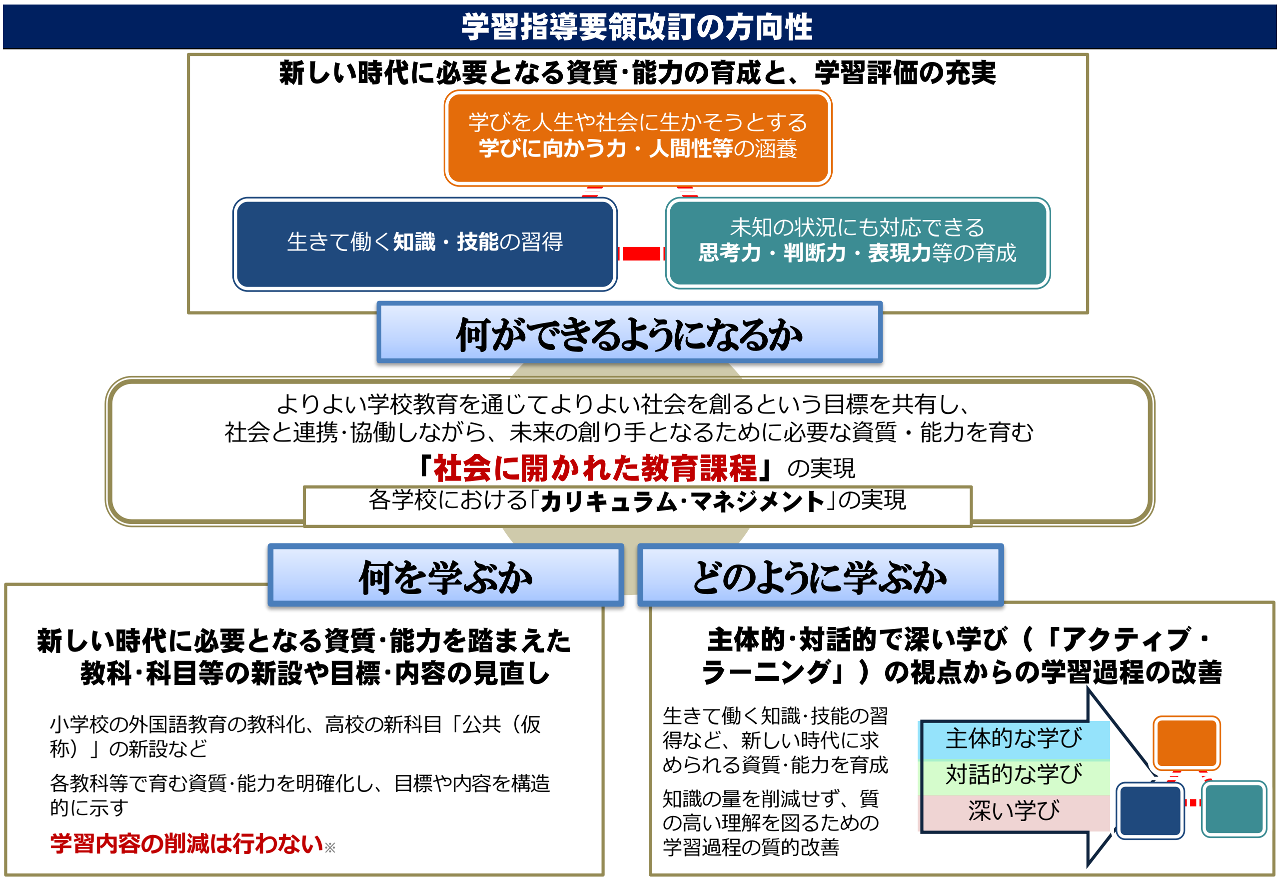
研究協力校・研究協力員……75

はじめに

平成 26 年 11 月，中央教育審議会に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」が諮問されて以来，中央教育審議会教育課程企画特別部会において議論が重ねられ，平成 28 年 12 月に「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（以下「答申」という。）」（2016）が出されました。

それらの中で，次期学習指導要領について，子供たちの現状と課題，グローバル化による社会の多様性や急速な情報化，技術革新による人間生活の質的な変化等，変化の激しいこの時代を生きていく子供たちの成長を支える教育の在り方を踏まえつつ，人間が学ぶことの本質的な意義や強みを改めて捉え直し，一人一人の学びを後押しできるよう，これまでの改訂の中心であった「何を学ぶか」という指導内容の見直しに留まらず，「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」までを見据えて改善を図る方向性が示されました。

また，「何ができるようになるか」という観点から整理された育成を目指す資質・能力（以下「三つの柱」という。）をバランスよく育むためには，「何を学ぶか」という指導内容等の見直しとともに，それらを「どのように学ぶか」という子供たちの具体的な学びの姿について「アクティブ・ラーニング」の視点からの見直しが欠かせないものとしています。（【図１】）



【図１】学習指導要領改訂の方向性（「答申」（2016）概要 p. 24）

この「答申」を踏まえ，文部科学省は，平成 29 年３月，幼小中の学習指導要領等の改訂告示を，平成 30 年３月，高等学校学習指導要領の改訂告示をそれぞれ公示しました。いよいよ新しい学習指導要領が議論から改訂，そして実施へと進むこととなりました。

外国語科におけるこれからの授業改善

現行の学習指導要領では，言語活動の充実を各教科等を貫く改善の視点として掲げており，外国語科においても言語活動の充実が図られてきました。この考え方は新しい学習指導要領でも継承されます。

また，外国語の学習においては，語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかということが最終的な目標なのではなく，生徒の学びの過程全体を通じて，知識・技能が，実際のコミュニケーションにおいて活用され，思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され，学習内容の理解が深まるなど，資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要です。

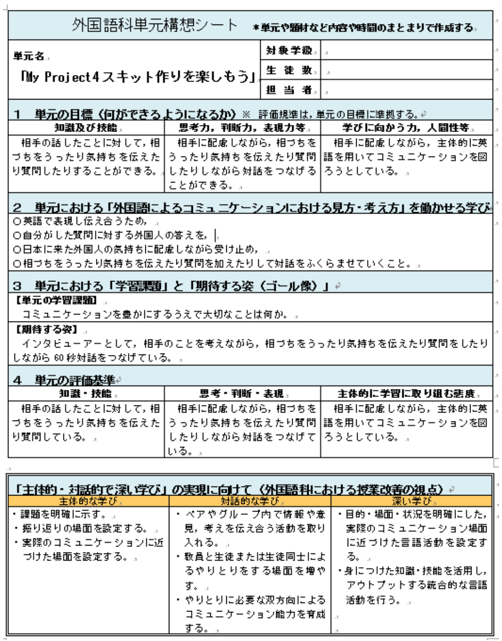
そこで，私たちは，平成28年度・29年度の２年間，外国語科におけるこれからの授業改善について研究を進めてきました。

本研究では，資質・能力の「三つの柱」を総合的に育むことを目指し，「どのように学ぶか」という点から，「『主体的・対話的で深い学び』の実現の手立て」，「資質・能力を育む学習過程」などに焦点をあて考えをまとめました。また，「何が身に付いたか」という点から，「学習評価の充実」についても考えをまとめました。

単元のデザイン

また，外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るために，単元等のまとまりを見通した学びの実現のために具体的にどのような授業づくりが必要なのか，単元というまとまりの中の学習活動において，育成を目指す「資質・能力」をどう設定し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てをどのように講じていくのかが大切なポイントとなります。

そこで，単元の指導をデザインしていく道筋を示すことを目指して，【図２】のような「単元構想シート」を開発しました（詳しくは本ガイドブック pp. 21－22 参照）。



外国語科単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する		
単元名　「My Project4スキット作りを楽しもう」	対象学級	
	生徒数	
	担当者	

1　単元の目標（何ができるようになるか）※　評価規準は，単元の目標に準拠する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりすることができる。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげることができる。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

○英語で表現し伝え合うため，
○自分がした質問に対する外国人の答えを，
○日本に来た外国人の気持ちに配慮しながら受け止め，
○相づちをうったり気持ちを伝えたり質問を加えたりして対話をふくらませていくこと。

3　単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」

【単元の学習課題】
コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か。

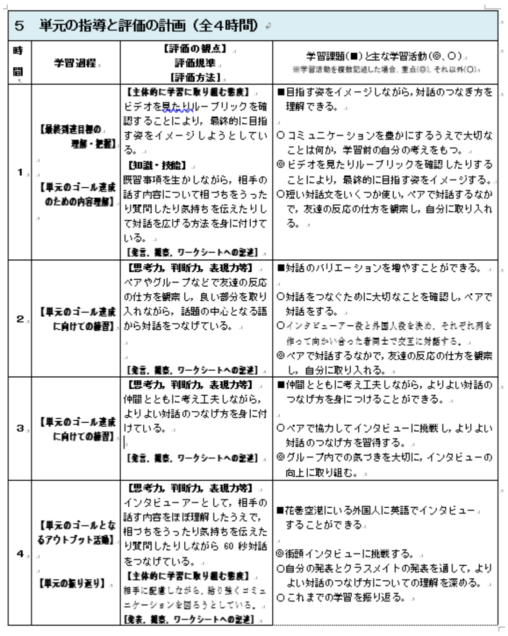
【期待する姿】
インタビューアーとして，相手のことを考えながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問をしたりしながら 60 秒対話をつなげている。

4　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問している。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげている。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・課題を明確に示す。 ・振り返りの場面を設定する。 ・実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。	・ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・教員と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。 ・やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力を育成する。	・目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。 ・身につけた知識・技能を活用し，アウトプットする統合的な言語活動を行う。



5　単元の指導と評価の計画（全４時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 【評価方法】	学習課題(■)と主な学習活動(◎、○) ※学習活動を複数記述した場合，重点(◎)，それ以外(○)
1	【最終到達目標の理解・把握】 【単元のゴール達成のための内容理解】	【主体的に学習に取り組む態度】 ビデオを見たりルーブリックを確認することにより，最終的に目指す姿をイメージしようとしている。 【知識・技能】 既習事項を生かしながら，相手の話す内容について相づちをうったり質問したり気持ちを伝えたりして対話を広げる方法を身に付けている。 【発言，観察，ワークシートへの記述】	■目指す姿をイメージしながら，対話のつなぎ方を理解できる。 ○コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か，学習前の自分の考えをもつ。 ◎ビデオを見たりルーブリックを確認したりすることにより，最終的に目指す姿をイメージする。 ○短い対話文をいくつか使い，ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
2	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力，判断力，表現力等】 ペアやグループなどで友達の反応の仕方を観察し，良い部分を取り入れながら，話題の中心となる語から対話をつなげている。 【発言，観察，ワークシートへの記述】	■対話のバリエーションを増やすことができる。 ○対話をつなぐために大切なことを確認し，ペアで対話をする。 ○インタビューアー役と外国人役を決め，それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に対話する。 ◎ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
3	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力，判断力，表現力等】 仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身に付けている。 【発言，観察，ワークシートへの記述】	■仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身につけることができる。 ○ペアで協力してインタビューに挑戦し，よりよい対話のつなげ方を習得する。 ◎グループ内での気づきを大切に，インタビューの向上に取り組む。
4	【単元のゴールとなるアウトプット活動】 【単元の振り返り】	【思考力，判断力，表現力等】 インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら 60 秒対話をつなげている。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手に配慮しながら，粘り強くコミュニケーションを図ろうとしている。 【発表，観察，ワークシートへの記述】	■花巻空港にいる外国人に英語でインタビューすることができる ◎街頭インタビューに挑戦する。 ○自分の発表とクラスメイトの発表を通して，よりよい対話のつなげ方についての理解を深める。 ○これまでの学習を振り返る。

【図２】単元構想シート

※「単元構想シート」の様式について
巻末に掲載の様式は，岩手県立総合教育センターのホームページからダウンロード可能です。ご活用ください。

改訂版の作成に関わって

本研究の成果をまとめた「授業づくりガイドブック」は平成 30 年３月に Web 公開しておりますが，その後の平成 30 年７月には「高等学校学習指導要領解説　外国語編」が出るなど，状況も変化しております。

そこで，この度，新たな知見による修正や補強を行い，より確かな内容としていくことを目指して「授業づくりガイドブック」の改訂版を作成することといたしました。

本改訂版ガイドブックにより，新学習指導要領の理解が一層図られるとともに，今後の授業実践が生徒にとっても教員にとっても有意義なものになるよう活用していただけましたら幸いです。

Ⅰ　外国語科において育成を目指す資質・能力「何ができるようになるか」

1　育成を目指す資質・能力

「答申」（2016）において，各教科や領域における指導について，次のように述べています。

> 現行の学習指導要領では，言語活動の充実を各教科等を貫く改善の視点として掲げるにとどまっている。言語活動の導入により，思考力等の育成に一定の成果は得られつつあるものの，教育課程全体としてはなお，各教科等において「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられており，それぞれ教えるべき内容に関する記述を中心に，教科等の枠組みごとに知識や技能の内容に沿って順序立てて整理したものとなっている。そのため，一つ一つの学びが何のためか，どのような力を育むものかは明確ではない。　（「答申」（2016）

【課　題】

〇指導の目的　⇒　「何を知っているか」という知識偏重
知っていることを活用し，思考力・判断力・表現力等を働かせ，生涯にわたって学び続ける主体的な学習に取り組む態度の育成までは至っていない。

外国語科の指導に当てはめると･･･

知識偏重の指導，文法訳読方式の指導から抜け出せていない傾向
コミュニケーション活動という名で「ゲーム形式の遊び」の指導等が依然として存在。
⇒　英語を使って何ができるようになるかという視点が欠如している。

（「平成 29 年改訂中学校教育課程実践講座　外国語」（2017）p. 10 を参考に作成）

また，外国語科としての課題について，次のように「答申」（2016）に示されています。

> 指導改善による成果が認められるものの，学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や，学校種間の接続が十分とは言えず，進級や進学をした後に，それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られる。
> （「答申」（2016）p. 193 ）

【課題の要因】

〇小学校の外国語活動において育まれた「聞くこと」「話すこと」を中心としたコミュニケーションを図ろうとする態度を生かすことなしに，中学校での英語の指導において，すぐに「読むこと」「書くこと」を中心とした指導に重点を置いていた。

〇生徒が小学校において既に学習経験してきた内容や，その際に「場面・状況」に合わせ，「言語の働き」「言語の使用目的」等が重視されて指導されてきたことをよく知らずに，中学校において，いわゆる「新出事項」として，「場面・状況」「目的」等を軽視して指導している。　（「平成 29 年改訂中学校教育課程実践講座　外国語」（2017）p. 5）

また，「答申」（2016）には，次のような指摘もあります。

> 中・高等学校においては，文法・語彙等の知識がどれだけ身に付いたかという点に重点が置かれた授業が行われ，外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組，特に「話すこと」及び「書くこと」などの言語活動が十分に行われていないことや，生徒の英語力では，習得した知識や経験を生かし，コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて適切に表現することなどに課題がある。　（「答申」（2016）p. 193 ）

このような状況を踏まえ，新学習指導要領において，「何ができるようになるか」という，育成を目指す資質・能力を明確にするという方向になりました。

育成を目指す資質・能力を明確にするに当たり，各教科等に共通する要素を定めたことは新学習指導要領における特徴の一つとも言えます。

今回示された各教科等に共通する「資質・能力の三つの柱」は，次のようになっています。

① 「何を理解しているか，何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」

② 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」

③ 「どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

（「答申」（2016）pp. 28-31）

この三つの柱を踏まえて，外国語の指導における資質・能力が示されることになりました。

外国語科における資質・能力について，「答申」（2016）では，次のように述べています。

課題を踏まえた外国語活動，外国語科の目標等の在り方

○ これらの課題を踏まえ，特に，他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を，外国語教育を通じて育成を目指す資質・能力全体を貫く軸として重視しつつ，他の側面（創造的思考，感性・情緒等）からも育成を目指す資質・能力が明確となるよう整理することを通じて，外国語教育における「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を更に育成することを目標として改善を図る。（別添13－１を参照）

あわせて，後述③の「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせながら，外国語教育において求められている資質・能力を育むために必要な教科等の目標を設定する。（別添13－２を参照）

（育成を目指す資質・能力と小・中・高等学校を通じた領域別の目標の設定）

○ 前述のように，外国語教育における「知識・技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で，前述のような課題を踏まえ，①各学校段階の学びを接続させるとともに，②「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から目標の改善・充実を図る。

○ 外国語の学習においては，語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく，児童生徒の学びの過程全体を通じて，知識・技能が，実際のコミュニケーションにおいて活用され，思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され，学習内容の理解が深まるなど，資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である。

（「答申」（2016）pp. 193-194）

２　外国語科において育成を目指す資質・能力

「答申」（2016）では，外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力について，三つの柱に沿った整理を行い，次の【表１】の通りまとめました。これらをどれか一つに絞って育成するのではなく，三つの柱として総合的に育成することが求められています。

【表１】外国語活動・外国語科において育成を目指す資質・能力の整理（「答申」(2016)別添資料 p. 72）

知識・技能 （何を知っているか，何ができるか）	○外国語の特徴やきまりに関する理解 ・音声，語彙・表現，文法の知識 ○言語の働き，役割に関する理解 （例） ・コミュニケーションを円滑にする（繰り返す，言い換える　等） ・気持ちを伝える（感謝する，謝る　等） ・情報を伝える（説明する，理由を述べる　等） ・考えや意図を伝える（賛成・反対する，主張する　等） ・相手の行動を促す（依頼する，許可する　等） ※各言語活動に応じた言語の働き ○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を，「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を活用した実際のコミュニケーションにおいて運用する技能　など
思考力・判断力・表現力等 （知っていること・できることをどう使うか）	◆外国語で，情報や考えなどを表現し伝え合う力 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，幅広い話題について，外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するコミュニケーション力 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，幅広い話題について，外国語を話したり書いたりして情報や考えなどを適切に表現するコミュニケーション力 ○外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，外国語で話したり書いたりして情報や考えなどの概用・詳細・意図を伝え合うコミュニケーション力 ◆考えの形成，整理 ○目的等に応じて，外国語の情報を選択したり抽出したりする力 ○知識や得た情報を活用して，自分の意見や考えを外国語で形成・整理・再構築する力 ○形成・整理・再構築した自分の意見や考えを，実際に外国語で表現する力　など
学びに向かう力，人間性等 （どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）	○外国語を通じて，言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度 ○外国語を通じて積極的に人や社会と関わり，自己を表現するとともに他者を理解するなど互いの存在について理解を深め，尊重しようとする態度　など

また，各学校種における育成を目指す資質・能力は，次の【表２】のように整理されています。

【表２】資質・能力の三つの柱に沿った，小・中・高を通じて外国語教育において育成すべき資質・能力の整理

（「外国語 WG 審議のまとめ」（2016）　資料２）

「知識・技能」（何を知っているか，何ができるか）

小学校外国語活動	小学校外国語	中学校外国語	高等学校外国語
○外国語への慣れ親しみ ○外国語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験すること ○外国語を聞いたり，話したりすること	○言葉の仕組みへの気付き（音，単語，語順など） ○聞くことに関する知識・技能 ○話すことに関する知識・技能 ○外国語を読んだり，書いたりすること	○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識 ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能　など	○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識 ○言語の働きや役割などの理解 ○外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を，「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を活用して実際のコミュニケーションで運用する技能　など

「思考力・判断力・表現力等」（知っていること・できることをどう使うか）

小学校外国語活動	小学校外国語	中学校外国語	高等学校外国語
○簡単な語句や表現を使って，自分のことや身の回りのことについて，友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○馴染みのある定型表現を使って，自分の好きなものや，一日の生活などについて，友達に質問したり質問に答えたりするコミュニケーション力	○具体的で身近な話題について，学校，地域，他教科等での学習内容等と関連付けながら，互いの考えや気持ちなどを外国語で適切に伝え合う力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力	○日常的な話題から時事問題や社会問題まで幅広い話題について，情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりするコミュニケーション力 ○聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりして発信するコミュニケーション力

「学びに向かう力，人間性等」（どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか）

小学校外国語活動	小学校外国語	中学校外国語	高等学校外国語
○外国語を用いた体験的なコミュニケーション活動を通じて言語の大切さや，文化の違いに気付く ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り，相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度　など	○外国語の学習を通じて，言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○外国語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさや言語を用いてコミュニケーションを図る大切さを知り，相手意識を持って外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度　など	○外国語を通じて，言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語でコミュニケーションを図ろうとする態度　など	○外国語を通じて，言語やその背景にある文化を尊重しようとする態度 ○自律的・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度 ○他者を尊重し，聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら，外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して，情報や考えなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度　など

３　外国語科において育成を目指す資質・能力と教科目標

今回の改訂では，各教科において育成を目指す資質・能力の三つの柱が，教科目標に位置付けられています。中学校における外国語科の教科目標の構造を整理すると，以下の【表３】のようになります。

【表３】中学校・高等学校　外国語科　教科目標の構造

		中学校外国語　目標 （「中学校学習指導要領」（2017）p. 129）	高等学校外国語　目標 （「高等学校学習指導要領」（2018）p. 216）
総括的な目標	柱書き	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
資質・能力ごとの目標	知識及び技能	(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
	思考力，判断力，表現力等	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
	学びに向かう力，人間性等	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

このように，外国語教育における「知識・技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を明確にした上で，①各学校段階の学びを接続させるとともに，②「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から目標が設定されています。

（現行）積極的＝活動に取り組む
（ 新 ）主体的＝人生，社会にもつながっている
　　　　　　という認識
　　　　　　もっと使えるようにという態度

総括的な目標としての「柱書き」

○「～を（的確に）理解したり（適切に）表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」
⇒　中・高等学校外国語科の目標の中心となる部分
○「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」
⇒　「外国語によるコミュニケーション」に焦点
⇒　「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は成長するもの。
現時点での「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」があり，それを言語活動の中で働かせ，資質・能力（指導事項）を育成する。その過程で，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」も成長していく。
（「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）pp. 9-11 を参考に作成）

資質・能力「知識及び技能」における目標としての（１）

○「生きて働く『知識・技能』の取得」を重視　＝『何ができるようになるか』までを目指す。
○「知識」の面　⇒　「外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解する」
○「技能」の面　⇒　「聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて（目的や場面，状況などに応じて適切に）活用できる」
（「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）pp. 11-12を参考に作成）

資質・能力「思考力，判断力，表現力等」における目標としての（２）

○「思考力，判断力，表現力等」の育成に関わる目標＝『理解していること・できることをどう使うか』
○コミュニケーション　⇒　「目的や場面，状況など」を意識
○思考・判断・表現の過程･･･精査した情報を基に自分の考えを形成し，文章や発話によって表現したり，目的や場面，状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い，多様な考えを理解したり，集団としての考えを形成していく過程　　（「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）pp. 12-14を参考に作成）

資質・能力「学びに向かう力，人間性等」における目標としての（３）

○「学びに向かう力，人間性等」の涵養に関わる目標
＝『どのように社会・世界と関わり，よりよい人生を送るか』
○「文化に対する理解」や「聞き手，読み手，話し手，書き手に対して『配慮』」
そして，「主体的（，自律的）にコミュニケーションを図ろうとする態度」を身に付ける
（「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）pp. 14-15を参考に作成）
（「高等学校学習指導要領解説　外国語編」（2018）pp. 16-17を参考に作成）

また，この外国語科の目標を踏まえ，英語科の目標として５領域ごと（聞くこと，話すこと[やりとり]，話すこと[発表]，書くこと）に具体的な目標を設定していますが，その柱書きにおいて以下のようなことが述べられています。

なお，以下に示しているのは中学校英語科における目標の文面ですが，高等学校の全ての科目においても以下の内容が示されており共通しているところです。

第２　各言語の目標及び内容等　　英　語　　１　目　標

英語学習の特質を踏まえ以下に示す，聞くこと，読むこと，話すこと［やり取り］，話すこと［発表］，書くことの五つの領域別に設定する目標の実現を目指した指導を通して，第１の(1)及び(2)に示す資質・能力を**一体的に育成**するとともに，その過程を通して，第１の(3)に示す資質・能力を育成する。　　（「中学校学習指導要領」（2017）p. 129）

育成を目指す資質・能力については，外国語学習の特性を踏まえて，
「知識及び技能」と「思考力，判断力，表現力等」を一体的に育成
その過程を通して，「学びに向かう力，人間性等」を育成

Ⅱ　外国語科における学習・指導の改善・充実　「どのように学ぶか」

1　「主体的・対話的で深い学び」の実現

（１）　「主体的・対話的で深い学び」の内容

「答申」（2016）には，「主体的・対話的で深い学び」について，以下のように述べられています。

> ○「主体的・対話的で深い学び」の実現とは，特定の指導方法のことでも，学校教育における教員の意図性を否定することでもない。人間の生涯にわたって続く「学び」という営みの本質を捉えながら，教員が教えることにしっかりと関わり，子供たちに求められる資質・能力を育むために必要な学びの在り方を絶え間なく考え，授業の工夫・改善を重ねていくことである。
>
> （「答申」（2016）p. 49 ）

また，「答申」（2016）で示された「主体的・対話的で深い学び」の内容と外国語科としてその実現のための視点を【表５】にまとめました。

【表５】「主体的・対話的で深い学び」の内容と外国語科としてその実現のための視点

	「主体的・対話的で深い学び」の内容 （「答申」（2016）pp. 49-50）	外国語科として「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための視点　（「答申」（2016）p. 200）
主体的な学び	学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しを持って粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。	○外国語を学ぶことに興味や関心を持ち，どのように社会や世界と関わり，学んだことを生涯にわたってどのように生かそうとするかについて，見通しを持って粘り強く取り組むこと ○自分の意見や考えを発信したり評価したりするために，自らの学習のまとめを振り返り，次の学習につなげること
対話的な学び	子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。	○他者を尊重した対話的な学びの中で，社会や世界との関わりを通じて情報や考えなどを伝え合う言語活動の改善・充実を図ること ○言語の果たす役割として他者とのコミュニケーション（対話や議論等）の基盤を形成する観点を資質・能力全体を貫く軸として重視すること ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設けること
深い学び	習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見い出して解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。	○言語の働きや役割に関する理解，外国語の音声，語彙・表現，文法の知識や，それらの知識を五つの領域において実際のコミュニケーションで運用する力を習得し，実際に活用して，情報や自分の考えなどを書いたり話したりすること ○外国語教育において育まれる「見方･考え方」を働かせて思考･判断･表現し，学習内容を深く理解し，学習への動機付け等がされる「深い学び」につながり，資質・能力の三つの柱に示す力が総合的に活用・発揮されるようにすること ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計すること

この三つの視点の相互関係や位置付けついてどのように捉えたらよいでしょうか。「答申」（2016）から【表６】にまとめました。

【表６】三つの視点の相互関係や位置付けついて（「答申」（2016）　pp. 50-51）

三つ視点の相互関係や位置づけ	三つの視点は，子供の学びの過程としては一体として実現されるものであり，また，それぞれ相互に影響し合うものでもあるが，学びの本質として重要な点を異なる側面から捉えたものであり，授業改善の視点としてはそれぞれ固有の視点であることに留意が必要である。
これまでの学習とのつながり	今までの授業時間とは別に新たに時間を確保しなければできないというものではなく，現在既に行われているこれらの活動（言語活動等）を，「主体的・対話的で深い学び」の視点で改善し，単元や題材のまとまりの中で指導内容を関連付けつつ，質を高めていく工夫が求められていると言えよう。

（２）　外国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な手立て

「答申」（2016）において示されている「外国語科として『主体的・対話的で深い学び』を実現するための視点」をもとに，外国語科における学習・指導の改善・充実のために必要な手立てを考え，次のようにまとめました。

外国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立て　（筆者作成）

【興味・関心をもたせるための手立て】
○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。
○身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。

【見通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】
○ＣＡＮ-ＤＯリストを基に単元を通して目指す姿を明確に設定する。
○ルーブリック等を用いながら教員が生徒と学習到達目標を共有する。

【自らの学びを振り返らせ，次の学習につなげさせるための手立て】
○言語面や内容面での振り返りを行う場面を設定する。
○学んだことを共有する場面を設定する。

【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】
○やりとりする中で題材について理解させたり（例：Teacher Talk や Oral Introduction 等），意見や考えを交流させたりする場面を設定する。
○それぞれの活動の目的に合わせて，ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する。
（例：相手を換え，対話させる機会を増やす等）

【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】
○お互いの存在や考えを尊重するなど，相手意識をもたせ安心して言語活動に取り組む親和関係を築かせる。
○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定する。

【資質・能力の３つの柱が総合的に活用・発揮させるための手立て】
○共有した学習到達目標を達成するために，新しく学ぶ内容だけではなく既習内容を関連付けさせて解決していく意識をもたせる。
○「教える場面」と「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現させる場面」を効果的に関連付けさせる。
○教科書の内容について読み取ったことや，自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて，発表させたり対話させたりするなど，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。
○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指し，目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。

（３）　外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」

ア　各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

「見方・考え方」とは，各教科等における物事を捉える視点や考え方であると「中学校学習指導要領解説　総則編」(2017)では次のように述べています。

> 各教科等の「見方・考え方」は，「どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり，教科等の学習と社会をつなぐものであることから，児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ，教師の専門性が発揮されることが求められること。　（「中学校学習指導要領解説　総則編」（2017）p. 4）

イ　「資質・能力の三つの柱」と「見方・考え方」の関係

物事を理解するために考えたり，具体的な課題について探究したりするにあたって，思考や探究に必要な道具や手段として資質･能力の三つの柱が活用･発揮され，その過程で鍛えられていくのが「見方・考え方」です。「資質・能力の三つの柱」と「見方・考え方」の関係について，「答申」（2016）には，次のように記述しています。

> 「見方・考え方」は，新しい知識・技能を既に持っている知識・技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり，思考力・判断力・表現力を豊かなものとしたり，社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものである。既に身に付けた資質・能力の三つの柱によって支えられた「見方・考え方」が，習得・活用・探求という学びの過程の中で働くことを通じて，資質・能力がさらに伸ばされたり，新たな資質・能力が育まれたりし，それによって「見方・考え方」が更に豊かなものになる，という相互の関係にある。　（「答申」（2016）p. 52）

ウ　「深い学び」と「見方・考え方」の関係

「深い学び」と「見方・考え方」の関係について，「答申」（2016）には，次のように記述しています。

> 「アクティブ・ラーニング」の視点においては，深まりを欠くと表面的な活動に陥ってしまうといった失敗事例も報告されており，「深い学び」の視点は極めて重要である。学びの「深まり」の鍵となるものとして，全ての教科等で整理されているのが（中略），各教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。今後の授業改善等においては，この「見方・考え方」が極めて重要になってくると考えられる。
> （「答申」（2016）p. 52）

また，「中学校学習指導要領解説　総則編」(2017)においても，「深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること」と述べられています。

エ　外国語科における「見方・考え方」

「答申」(2016）では，外国語科での「見方・考え方」について，以下のように述べられています。

> 他者とコミュニケーションを行う力を育成する観点から，社会や世界とのかかわりの中で，外国語やその背景にある文化の多様性を尊重し，外国語を聞いたり読んだりすることを通じて様々な事象等を捉え，情報や自分の考えなどを外国語で話したり書いたりして表現して伝え合うなどの一連の学習過程を経て，子供たちの発達段階に応じた「見方・考え方」が豊かで確かなものになることを重視し，整理することが重要である。
> （「答申」(2016）p. 196 ）

文化の多様性：自分とは異なる言語，文化（考え方，価値観，宗教，思考他）を持つ他者に対する寛容性を育てる

それを踏まえて，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」として，「答申」（2016）に以下のように整理されました。

「外国語によるコミュニケーション における見方・考え方」

○外国語で表現し伝え合うため，

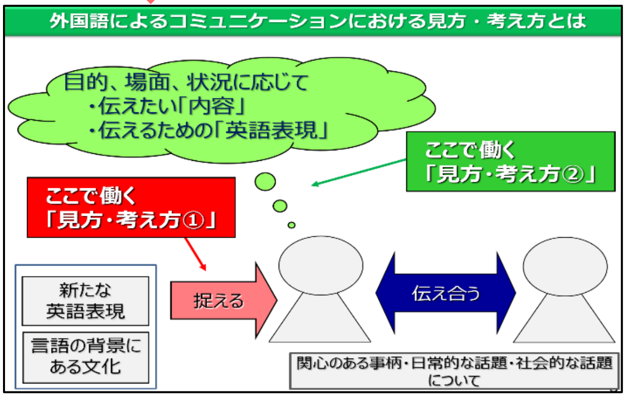
○外国語やその背景にある文化を，
○社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，

○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること

（「答申」（2016））p.196）

外国語で他者とコミュニケーションを行うには，社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり，外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要であることを示している

○多様な人々との対話の中で，目的や場面，状況等に応じて，既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けてより深く理解すること
○情報を精査して考えを形成したり，課題を見いだして解決策を考えたり，身に付けた思考力を発揮させたりすること
○外国語で表現し伝え合うために，適切な言語材料を活用し，思考・判断して情報を整理するとともに，自分の考えなどを形成，再構築すること



「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）には，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」と授業改善について次のように記述されています。

(1) ア　単元など内容や時間のまとまりを見通して，その中で育む資質・能力の育成に向けて，生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際，具体的な課題を設定し，生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら，コミュニケーションの目的や場面，状況などを意識して活動を行い，英語の音声や語彙，表現，文法の知識を五つの領域における実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図ること。

（「中学校学習指導要領解説　外国語編」（2017）p.82）

単元レベルでの見方・考え方を設定するためには，「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」の構造の理解が必要になります。構造を整理したものと，「スキット作りを通して対話をつなげることを学ぶ単元」の場合についての単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び（例）を【表７】に示します。

【表７】外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」の構造

	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び（例） 「My Project4 スキット作りを楽しもう」[SUNSHINE English Course２]（筆者作成）
どのような目的で	外国語で表現し伝え合うため，	英語で表現し伝え合うため，
何を	外国語やその背景にある文化を，	自分がした質問に対する外国人の答えを，
どのようなことに着目して捉え	社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，	日本に来た外国人の気持ちに配慮しながら受け止め，
どう形成，整理，再構築していくのか	コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて，情報や自分の考えなどを形成，整理，再構築すること	相づちをうったり気持ちを伝えたり質問を加えたりして対話をふくらませていくこと

２　学びの過程と単元構想

（１）　外国語科における資質・能力を育成する学習過程

「答申」（2016）では，外国語科の資質・能力を育成する学びの過程の考え方について，以下のように述べられています。

○「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学習過程に改善するため，育成を目指す「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三つの資質・能力を確実に身に付けられるように改善・充実を図る必要がある。

○外国語教育における学習過程では，児童生徒が，**㋐設定されたコミュニケーションの目的・場面・状況等を理解し設定する，㋑目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し，コミュニケーションの見通しを立てる，㋒対話的な学びとなる目的達成のため，具体的なコミュニケーションを行う，㋓言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う**という学習プロセスを経ることで，学んだことの意味付けを行ったり，既得の知識や経験と，新たに得られた知識を言語活動へつなげ，思考力・判断力・表現力等を高めていったりすることが大切になる。

○言語活動を行なう際は，単に繰り返し活動を行なうのではなく，児童生徒が言語活動の目的や，使用の場面を意識して行うことができるよう，具体的な課題等を設定し，その目的を達成するために，必要な語彙や文法事項などの言語材料を取捨選択して活用できるようにすることが必要である。

○また，言語材料については，発達段階に応じて，児童生徒が受容するものと発信するものとがあることに留意して指導し，各学校段階等を通じて習得していく過程が重要である。

○あわせて，小学校中学年で扱われた語彙・表現や，高学年における文字の認識，語順の違いなどへの気付き等に関して指導した内容を，中学校の言語活動において繰り返し活用することによって，生徒が自分の考えなどを表現する際にそれらを活用し，話したり書いたりして表現できるような段階まで確実に定着させることが重要である。

（「答申」（2016）p. 197）

また，「答申」(2016)参考資料において，小・中・高等学校で一貫した目標（指標形式の目標を含む）の下で，発達段階に応じた「学習過程」を経ることによる思考力や判断力の深まり，外国語による表現力の向上，主体的・自律的に学習する態度の育成などを通じ，的確に理解し適切に伝え合うコミュニケーション能力を育成することが大切だと述べています。

さらに「答申」（2016）には，単元等のまとまりを見通した学びの実現について，以下のように述べられています。

○「主体的・対話的で深い学び」は，１単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく，単元や題材の中で，例えば主体的に学習を見通し振り返る場面をどこに設定するか，グループなどで対話する場面をどこに設定するか，学びの深まりを作り出すために，子供が考える場面と教員が教える場面をどのように組み立てるか，といった視点で実現されていくことが求められる

○各学校の取組が，毎回の授業の改善という視点を超えて，単元や題材のまとまりの中で，指導内容のつながりを意識しながら重点化していけるような，効果的な単元の開発や設定に関する研究に向かうものとなるよう，単元等のまとまりを見通した学びの重要性や，評価の場面との関係などについて，総則などを通じてわかりやすく示していくことが求められる。

（「答申」（2016）p. 52）

このように，単元など内容や時間のまとまりの中で，授業改善を進めることが求められます。
以上のことをもとに，外国語科における授業づくりの基本となる学習過程の例を【図２】に示します。

【図２】 外国語科における学習過程（例）
（「答申」（2016）p. 197を参考に作成）

プロセス		学習活動
目的の設定・理解	最終到達目標（単元のゴール）の理解・把握	・学習する内容についての全体像を把握し，最終到達目標を理解する活動
目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動当の見通し	単元のゴール達成のための理解	・言語材料について理解したり練習したりする活動
	単元のゴール達成に向けての練習	・互いの考えや気持ちを伝え合う活動 ・コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような活動
目的実現のための言語活動 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」の統合型	単元のゴールとなるアウトプット活動	・コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動 ・知識やその知識を実際のコミュニケーションで運用する力を実際に活用して，情報や自分の考えなどを書いたり話したりする活動
言語・内容の両面におけるまとめと振り返り	単元の振り返り	・話して伝えたことをより正確に書く活動 ・受信したことや発信したことを整理する活動 ・自らの学習のまとめを振り返り，次の学習につなげる活動

三つの視点

【主体的な学び】
○生徒の学ぶことに対する興味や関心の喚起
○身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定
○教員が生徒と学習到達目標を共有
○言語面や内容面での振り返りを行う場面の設定
○次の学習につなげる意識をもたせる場面の設定

【対話的な学び】
○意見や考えを交流させる場面の設定
○学習形態の工夫
（相手を代え，対話させる機会を増やす）
○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定

【深い学び】
○既習内容を関連付けさせて解決していく意識の喚起
○「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現させる場面の設定
○アウトプットを目指した統合的な言語活動の設定
○目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動の設定

（２）　ゴール像から逆算した単元構想

外国語教育において育成を目指す資質・能力の向上を図るために，単元等のまとまりを見通した学びの実現のために，具体的にどのような授業づくりが必要でしょうか。

「主体的・対話的で深い学びの実現」にむけた授業づくりのポイント

○付けたい力，最終的に目指す姿を教員が意識する
○付けたい力，最終的に目指す姿を生徒が意識する
○そして，生徒自身が付いた力を実感できる学びとする

１時間１時間の授業も大事。
それと同時に，単元全体の指導構想が大事。

単元のゴール（付けたい力）は？

・ＣＡＮ-ＤＯ（英語を用いて何ができるか）の面からゴール設定しているか
・語彙や文法事項等を覚えさせることが主たる目標になっていないか
・単元末までにできるようになっていることを意識しているか

主体的・対話的で深い学びの実現

指導における問題点として，「学習到達目標」を設定したとしても，その目標に生徒が到達するまでの道筋が見えないということが挙げられます。外国語科でいうと「ＣＡＮ-ＤＯリスト形式の学習到達目標」（以下，「ＣＡＮ-ＤＯリスト」と表記）の作成はなされているものの，その活用がどこまでされているかということでもあります。学習到達目標（ＣＡＮ-ＤＯリスト）は最終的に目指す生徒の姿ですから，その姿に導く授業や学びが行われなければいけません。言い換えると，学習を積み上げたからこそ到達できる姿が学習到達目標です。やはり，子どもたちを目指す姿に到達させるためには，そこに至るまでの計画的な指導，明確な指導構想が必要不可欠です。

ＣＡＮ-ＤＯリストと子どもたちをつなぐ
年間指導計画，単元指導計画

○ＣＡＮ-ＤＯ形式の学習到達目標と，年間指導計画とを有機的に連動させる

○具体的には，どの時期に，どの単元の指導場面で，どのような学習活動を通して目標に迫るかを構想し，必要な言語活動を位置付ける

○内容によっては，単元の枠にとどまらず，継続的に指導して目標を達成するものもある

また，そうすることにより，長期間のまとまりをもった指導の中で，より総合的な育成を図ることができます。

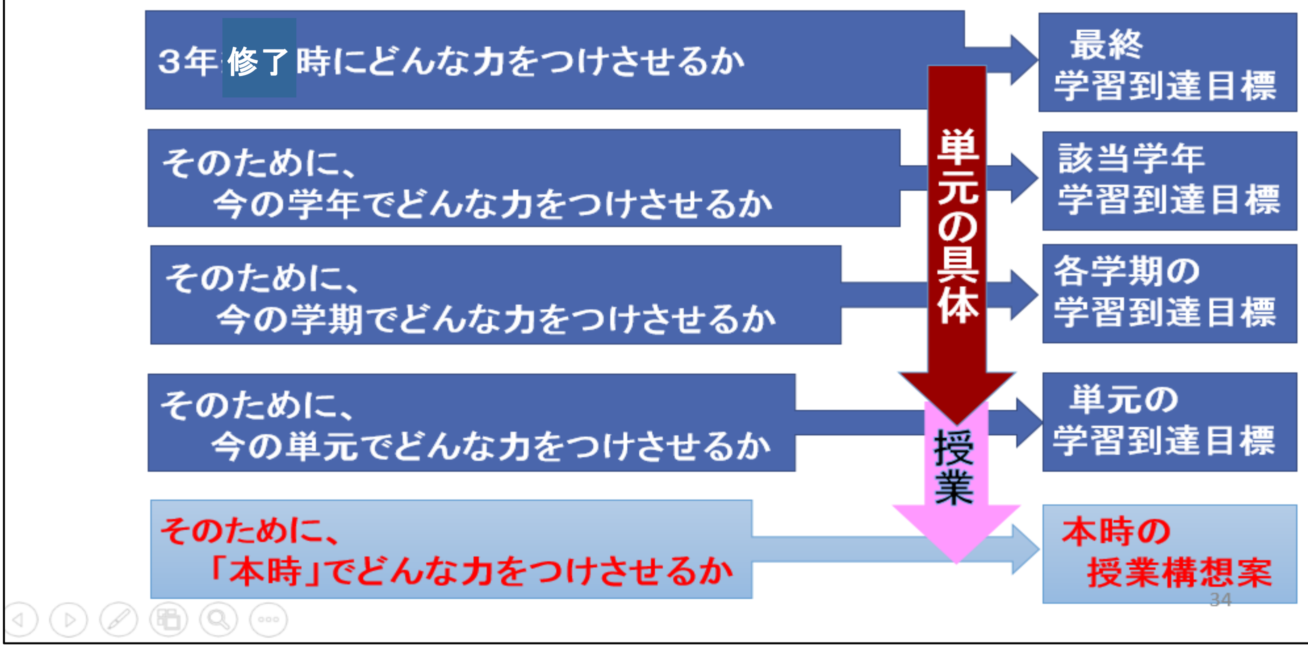
【イメージ：年間を通した総合的な育成】

	Program 1	Program 2	Program 3	Program 4	Mini Project 1	Program 5	Program 6	Program 7	Mini Project 2
話すこと（やりとり）	◎					◎			◎
話すこと（発表）		◎						◎	
書くこと			◎		◎		◎		
聞くこと				◎				◎	
読むこと		◎							◎

各単元において評価の対象とするものに◎を付している。
◎は、重点的に指導することを示す。

このように，まとまりを見通した学びを実現するためには，年間，学期，そして単元全体を通して「身に付けさせたい力」を総合的に育成するために，ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える「バックワード・デザイン」を意識した指導構想を行うことが必要です。さらには，学期，学年，そして３年間のゴールをも明確に設定し，そこから逆算した「バックワード・デザイン」による単元，そして本時へとつながりを持たすことが大事です。

【イメージ：ゴールを見据えた指導】



このように，「本時のゴール」が「単元のゴール」，「３年修了時のゴール」へと直結していることを教員が意識することが大切であるとともに，それらを生徒と共有することも大切だと考えます。明確なゴールが共有されることで，それぞれの時間の学びがゴールへつながるスモールステップだということを生徒自身が感じることで，学びに対する主体性を高めることができます。

（３）　外国語科における資質・能力の育成を目指した単元構想

単元というまとまりの中の学習活動において，育成を目指す「資質・能力」をどう設定し，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた手立てをどのように講じていくのかということを含めて，これまで示した基本的な考え方をもとに，単元の構想づくり（例）について整理します。

ガイドブック pp. 17–18

STEP 0　ＣＡＮ–ＤＯリストから単元の学習到達目標を具体化する

○　あるべき授業の構想

・３年間の最終到達目標（ＣＡＮ–ＤＯリスト）や学年の最終到達目標（ＣＡＮ–ＤＯリスト）から逆算した，本単元における英語を通して育てたい生徒像の明確化を図ります。
・ＣＡＮ–ＤＯリストを単元の学習活動に落とし込んで，目標を具体化します。

ガイドブック pp. 11–12

STEP 1　「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「授業づくり」の方針を立てる

○　生徒観，教材観，指導観

生徒の実態把握，ＣＡＮ-ＤＯリストと生徒の実態のギャップの把握，効果的な手立ての検討等

○　「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業づくりの方針

どのように「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指していくのか，本単元における具体的な手立てを確認・検討します。

ガイドブック pp. 7–8

STEP 2　単元で育成を目指していく「資質・能力」を明確にする

○　単元での最終到達目標の具体化

学習指導要領の記述を基に，この単元において「外国語の特徴やきまりに関する知識（理解）」「言語の働き，役割に関する知識（理解）」を習得・獲得する過程で育成を目指していく「外国語の音声，語彙・表現，文法の知識を，実際のコミュニケーションにおいて運用する技能」や「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」は何かを具体化します。

ガイドブック pp. 13–14

STEP 3　「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる単元の「学習課題」を明確にする

○　単元に該当する「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」の具体化

○　単元の「学習課題」の設定

・生徒が自ら「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を用いて学習対象となる知識・技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を育成することができるよう「学習課題（問い）」を明確にします。
・「学習課題」が教材や対話的な学びが生まれるような学習活動を準備する際の視点となり，深い学びに至る鍵となります。
・生徒たちが，学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせられるようにすることにこそ，教員の専門性が発揮されるべきものとされています。（「答申」(2016) p. 34 ）

STEP 4　単元における最終的な「期待する姿」から「パフォーマンス課題」を設定する

ガイドブック pp. 29–30

○　単元の「学習課題」を解決した姿である「期待する姿（ゴール像）」の具体化

○　「パフォーマンス課題」の設定とそれに対する「ルーブリック」の作成

・単元のまとめで生徒に到達させたい姿を設定します。
・「パフォーマンス課題」は，単元やそれまでに学んだ要素を統合して取り組む「まとめの課題」として単元の中に位置付けます。その内容を単元の学習前に生徒と共有することで，パフォーマンス課題に向けてどう勉強（練習）すれば良いか，生徒は主体的に動き始めます。
・言語活動をただ行えばいいということではなく，「外国語を用いて何ができるようになるのか」という視点から単元全体を見通し，単元計画と年間の到達目標とが有機的につながるよう設定することが大切です。

STEP 5　ゴール像から逆算した「単元の指導」を設計する

ガイドブック pp. 15–18

○　単元の学習過程（例）

最終到達目標（単元のゴール）の理解・把握	単元のゴール達成のための理解	単元のゴール達成に向けての練習	単元のゴールとなるアウトプット活動	単元の振り返り

・資質・能力の育成を目指すこれからの授業づくりでは，単元全体を見通した中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが求められています。

○　単位時間毎の学習活動の明確化

・「期待する姿（ゴール像）」とのつながりを意識した「本時の学習課題」を設定します。
・「本時の学習課題」の解決につながる主な学習活動を設定します。
・「単位時間毎の学習活動」が単元全体を見通した際に，３つの学びの視点のうちいずれの実現につながるものか位置付けます。軽重の違いはあるにせよ，各単位時間内の学びの過程にも，３つの学びはいずれも位置付いています。単位時間レベルでの実現も目指されます。

STEP 6　「評価方法」を明確にし，学習活動の充実度を見取る

ガイドブック pp. 25–28

○　「評価方法」の明確化

・生徒の学習状況を「どの観点で」「どのような規準で」「どのような評価材料を基に」評価するのか「評価方法」を明確にします。
・主として単位時間毎の重点となる学習活動についての評価方法を具体的に考えます。

（４）　資質・能力を育成する単元構想の実現を目指した「単元構想シート」の活用

これまで，単元全体を通して「身に付けさせたい力」を育成するために，ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える「バックワード・デザイン」を意識した単元構想を行うことの必要性を述べてきました。

このような，資質・能力を育成する単元構想の実現に向けて，本研究では，以下に示す「単元構想シート」を活用して，単元を構想しました。

【単元構想シート】

単元を通して育成を目指す資質・能力を明確に設定した単元構想の実現

＜開発にあたっての留意点＞

- 構成項目を絞り，日常において作成しやすいものとすること
- 学習指導要領等に即し，育成を目指す資質・能力を捉えられること
- 作成を通し，単元の本質となるねらいに迫ることができること
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のポイントを押さえることができること
- 各教科統一項目・統一様式とすることで，校内において共通の視点で単元構想のポイントを考えていくことができること

１　単元の目標

「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」について新学習指導要領の「目標」「内容」を基にして，単元の内容に合わせて単元で育成する資質・能力を明確に記述します。

２　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

本ガイドブック pp. 13-14 の「外国語によるコミュニケーションにおける『見方・考え方』の構造」を参考にして，「見方・考え方」を単元レベルで設定し，記述することで単元構想につなげます。

３　単元における「学習課題」と「期待する姿」

本ガイドブック pp. 17-18 を参考にして，ゴールの姿となる到達目標から逆算して考える「バックワード・デザイン」を意識した単元構想につなげるよう，最終到達目標をＣＡＮ-ＤＯリストとのつながりをもたせながら設定します。

「期待する姿」は本ガイドブック pp. 31-32 の「外国語科におけるパフォーマンス課題とルーブリック」を参考にして，「評価３(B)」に該当する，最終的に目指す生徒の具体的な姿を記述します。

外国語科単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する。

単元名		
「My Project4 スキット作りを楽しもう」	対象学級	
	生徒数	
	担当者	

１　単元の目標（何ができるようになるか）　※ 評価規準は，単元の目標に準拠する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりすることができる。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげることができる。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

２　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

○英語で表現し伝え合うため，
○自分がした質問に対する外国人の答えを，
○日本に来た外国人の気持ちに配慮しながら受け止め，
○相づちをうったり気持ちを伝えたり質問を加えたりして対話をふくらませていくこと。

３　単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」

【単元の学習課題】
コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か。

【期待する姿】
インタビューアーとして，相手のことを考えながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問をしたりしながら 60 秒対話をつなげている。

４　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問している。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげている。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・課題を明確に示す。 ・振り返りの場面を設定する。 ・実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。	・ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・教員と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。 ・やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力を育成する。	・目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。 ・身につけた知識・技能を活用し，アウトプットする統合的な言語活動を行う。

4　単元の指導と評価の計画

5　単元の指導と評価の計画（全４時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 [評価方法]	学習課題(■)と主な学習活動(◎、○) ※学習活動を複数記述した場合，重点(◎)，それ以外(○)
1	【最終到達目標の理解・把握】 【単元のゴール達成のための内容理解】	【主体的に学習に取り組む態度】 ビデオを見たりルーブリックを確認することにより，最終的に目指す姿をイメージしようとしている。 【知識・技能】 既習事項を生かしながら，相手の話す内容について相づちをうったり質問したり気持ちを伝えたりして対話を広げる方法を身に付けている。 [発言，観察，ワークシートへの記述]	■目指す姿をイメージしながら，対話のつなぎ方を理解できる。 ○コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か，学習前の自分の考えをもつ。 ◎ビデオを見たりルーブリックを確認したりすることにより，最終的に目指す姿をイメージする。 ○短い対話文をいくつか使い，ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
2	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力，判断力，表現力等】 ペアやグループなどで友達の反応の仕方を観察し，良い部分を取り入れながら，話題の中心となる語から対話をつなげている。 [発言，観察，ワークシートへの記述]	■対話のバリエーションを増やすことができる。 ○対話をつなぐために大切なことを確認し，ペアで対話をする。 ○インタビューアー役と外国人役を決め，それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に対話する。 ◎ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
3	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考力，判断力，表現力等】 仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身に付けている。 [発言，観察，ワークシートへの記述]	■仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身につけることができる。 ○ペアで協力してインタビューに挑戦し，よりよい対話のつなげ方を習得する。 ◎グループ内での気づきを大切に，インタビューの向上に取り組む。
4	【単元のゴールとなるアウトプット活動】 【単元の振り返り】	【思考力，判断力，表現力等】 インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら 60 秒対話をつなげている。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手に配慮しながら，粘り強くコミュニケーションを図ろうとしている。 [発表，観察，ワークシートへの記述]	■花巻空港にいる外国人に英語でインタビューすることができる ◎街頭インタビューに挑戦する。 ○自分の発表とクラスメイトの発表を通して，よりよい対話のつなげ方についての理解を深める。 ○これまでの学習を振り返る。

各単位時間の
学習課題と主な学習活動

各単位時間における，学習課題を示すとともに，その時間で行う主な学習活動を記述します。

学習過程

本ガイドブック p. 16 で示した「学習過程（例）」を参考に学習のプロセスを記述します。

評価の観点・評価規準・評価方法

各単位時間における，評価の観点，評価規準，評価方法を記述します。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

本ガイドブックの p. 12 で示した「『主体的・対話的で深い学び』の実現に必要な手立て」を参考にして，単元の目標達成に向けた指導の手立てを記述します。
ここにはその単元の中で特に重点となる手立てについて記述します。

【補足説明】
・括弧書きで項目の中に昨年度の研究に基づいた「視点」を入れ，校内において全教員が同じ視点で確認できるものとしています。
・記入欄には，各教科で具体化したもの（外国語科については，本ガイドブック p. 12）から，生徒の実態を鑑み取捨選択しながら記入することを基本とします。また，これをベースに，単元の指導計画を組み立てていきます。
・項目の番号を外し独立させているのは，汎用的な内容となることを想定したためです。
なお，単元の内容を鑑みより具体的に構想し記入することを妨げるものではありません。じっくりと考える時間があれば，単元の内容を鑑み具体的に構想し記入していくことを目指します。

（5） 資質・能力を育成する単元構想の生徒との共有を目指した「振り返りシート」の活用

生徒が学びを実感し，次の学びに対して目的をもって主体的に取り組み，継続させ，スパイラルに学習を積み重ねることで最終的な目標へと近づくと考えます。中学校における実践では特に単元構想の共有と生徒の学びの自覚に視点を置き，生徒にとっては主体的な学びを生み，教員にとっては指導実践と改善にあたる「振り返りシート」の活用に取り組みました。

ア 「単元構想の共有」の必要性

生徒にとって主体的な学びとしていくために，生徒自身が見通しをもって学習に取り組み，自己の学習を振り返って次につなげていくことが重要です。単元構想シートを作成することで明確にした単元や単位時間の学習課題や評価規準などを，次のように生徒との共有に活用していくことは大切だと考えます。

○単元のはじめに，単元の学習課題や期待する姿などを生徒と共有し，単元の学習でどのような力を身に付けることを目指すのかを理解し，見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。
○単位時間の学習課題や評価規準に基づいた付けたい力などを生徒と共有し，単元全体の中での本時の位置付けを意識しながら，本時の学習に見通しをもって取り組んだり，自己の学習を振り返ったりできるようにする。

生徒との共有の仕方については，単元全体を通して使用する一枚の振り返りシートの形で明示したり，単位時間毎の学習シートなどに明示したり，板書に位置付けて明示したりすることが考えられます。本研究においては，中学校での実践１と実践２において，単元全体を通して使用する「振り返りシート」を作成することで，生徒との単元構想の共有を図りました。

イ 「学びを自覚すること」の必要性

「振り返りシート」は単元の構想を生徒と共有する手立てとして効果的であると同時に，生徒が自身の「学びを自覚すること」を促すうえで効果的であると考えます。

「学びを自覚すること」とは，生徒が主体的に諸問題を課題化し，解決していくような学びの過程をメタ認知し，自己効力感をもつことです。また，「学びを自覚すること」とは，「自らの変容を自覚すること」にもつながります。「変容」とは１単位時間や単元，年間の学習における生徒の変化，考えの変化のことです。「変容を自覚すること」はその変化がどうして起きたのか，その過程に気づくことで，さらに主体的に学習に励むことが期待されます。外国語科の特性により，生徒は徐々に言語材料が身につき，スパイラルに学習を積み重ねることで，使える英語も増えていきます。そのため，年間や単元を見通して計画的にフィードバックを取り入れ，自らの変化を自覚させることが大切だと考えます。

また，単元ごとに１枚のシートを作成し，学びを自分のことばで表現させることで，学びを生徒自身が自覚するとともに，教員も自身の指導がどうであったか生徒のことばを通して確認できるようにしたいと考えます。

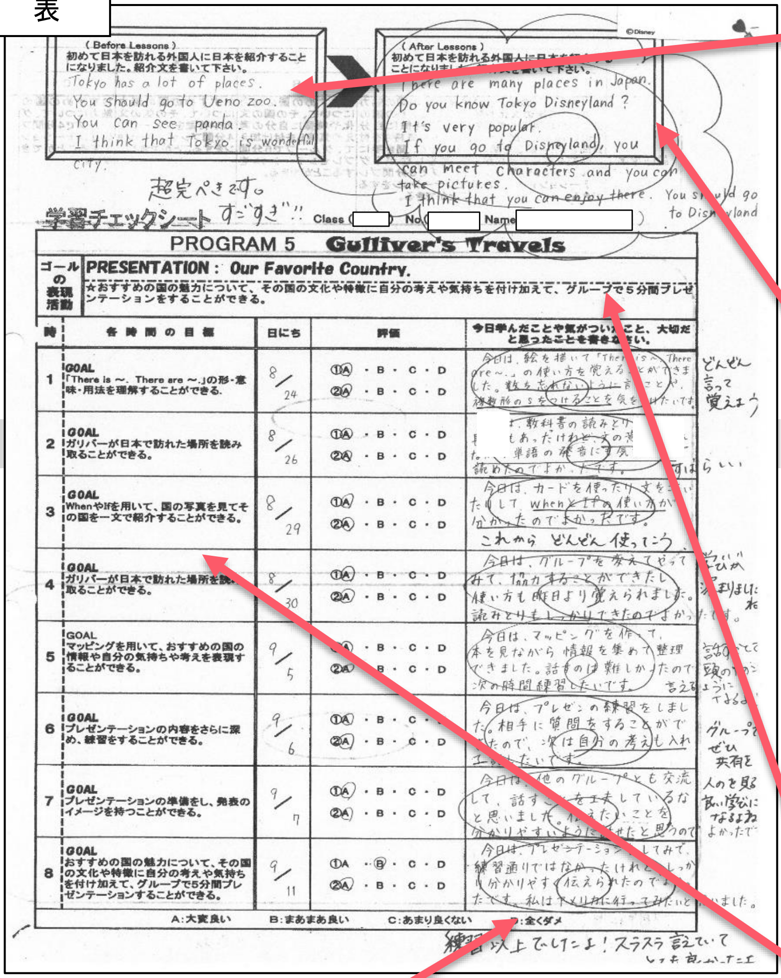
そこで，生徒の変容を視覚的に記し残すことで学びの自覚を促すものとして効果的な「振り返りシート」の活用を考えました。

ウ 「振り返りシート」の活用

以上で述べてきた通り，①単元の構想と最終的な活動を生徒と共有することで生徒の自発的な学習意欲の向上を図る，②自分の変容に気づかせることにより，自らの学びを自覚させる，といった視点をもって作成した「振り返りシート」（今回の中学校における実践では「学習チェックシート」）の例を次に示します。

【参考例】中学校実践２における「学習チェックシート（振り返りシート）」

表



単元学習前の自己表現

単元の学習に入る前の段階で，その単元のゴールの表現活動につながりをもたせたテーマを与え，表現活動に取り組ませる。この時点では，「できない」「うまくいかない」という気持ちをもつことも，この単元での学習意欲へつながると考える。

単元学習後の自己表現

単元の学習の最終段階において，表現活動に取り組ませる。学習前に取り組んだ表現活動と全く同じテーマの場合もあれば類似したテーマの場合もあるが，どちらにしても単元を通して学んできたことによる表現のふくらみや変化を実感させることができる。学習前後におけるそれぞれの自己表現を比較すると，習得した新言語材料の活用も見られ，学びによる成長を生徒自身が実感できるものとなる。

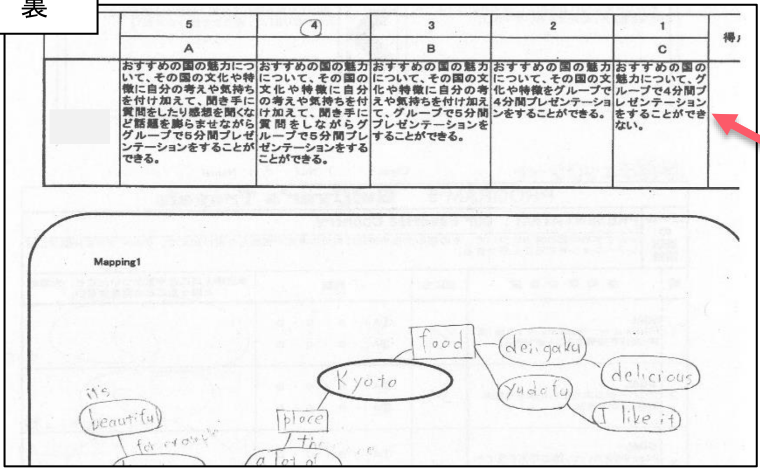
単元全体の流れと パフォーマンス課題の提示

その単元の学習の大まかな流れとともに，ゴールの表現活動を提示する。それらを単元の学習に入る前に生徒に伝えることで，習得の段階においてもその先にある表現活動を意識しながら主体的に学習に取り組ませることができる。

生徒の学びのまとめとそれに対する教員のコメント

単元内での学びを自分のことばで表現させる。これにより，生徒が自分の学びを振り返ることができると同時に，教員も生徒のことばを通して，生徒の学びを確認し，自分の指導がどうであったか確認できる。また，それに対して教員がコメントを書くことで，生徒一人ひとりと教員がシートを通してコミュニケーションをとることができる。

裏



パフォーマンス課題の ルーブリックの提示

パフォーマンス課題のルーブリックを必要に応じて単元の学習前に生徒に示し，目指す姿を生徒が理解して学習に取り組めるようにする。

Ⅲ　外国語科における学習評価の充実　　「何が身に付いたか」

1　学習評価に対する基本的な考え

中学校・高等学校の新学習指導要領の総則において，以下のように記されています。

「総則」に盛り込まれたこと

学習到達目標の明確化と
指導・評価における活用

・（第３の２）　**学習評価**

〇各教科（・科目）等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して，学習の過程や成果を評価し，指導の改善や学習意欲の向上を図り，資質・能力の育成に生かすようにすること

（「中学校学習指導要領」(2017）p. 8，「高等学校学習指導要領」(2018）p. 18)

また，学習評価に関する「答申」（2016）の記述から，学習評価に対する基本的な考えを以下の８項目に分けて整理しました。

本研究における学習評価

学習評価の意義

〇　学習評価は，学校における教育活動に関し，子供たちの学習状況を評価するものである。「子供たちにどういった力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え，教員が指導の改善を図るとともに，子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには，この学習評価が極めて重要であり，教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性をもった形で改善を進めることが求められる。

（「答申」(2016）p. 60）

ア　学習評価の目的は，「学習成果の把握」「教員の指導改善」「学習者の学びの推進力」とする。

評価の観点

〇　観点別評価については，目標に準拠した評価の実質化や，教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から，小・中・高等学校の各教科を通じて，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理することとし，指導要録の様式を改善することが必要である。

（「答申」(2016）p. 61）

イ　評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点とする。

評価の場面

〇　これらの観点については，毎回の授業で全てを見取るのではなく，単元や題材を通じたまとまりの中で，学習・指導方法と評価の場面を適切に組み立てていくことが重要である。

（「答申」(2016）pp. 61-62）

ウ　単元の中に，学習・指導方法と評価の場面を適切に組み入れる。

多面的・多角的な評価

○　資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには，指導と評価の一体化を図る中で，論述やレポートの作成，発表，グループでの話合い，作品の制作等といった多様な活動に取り組ませるパフォーマンス評価などを取り入れ，ペーパーテストの結果にとどまらない，多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。　（「答申」（2016）p. 63）

エ　単元に実際のコミュニケーションの場面を設定した言語活動を位置付け，パフォーマンス評価を行っていく。

自己評価

○　子供一人一人が，自らの学習状況やキャリア形成を見通したり，振り返ったりできるようにすることが重要である。そのため，子供たちが自己評価を行うことを，教科等の特質に応じて学習活動の一つとして位置づけることが適当である。
（「答申」（2016）p. 63）

オ　学習活動の中に自己評価を位置付ける。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に当たっての留意点

○　評価の観点のうち「主体的に学習に取り組む態度」については，学習前の診断的評価のみで判断したり，挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。
　子供たちが自ら学習の目標を持ち，進め方を見直しながら学習を進め，その過程を評価して新たな学習につなげるといった，学習に関する自己調整を行いながら，粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしたりしているかどうかという，意思的な側面を捉えて評価することが求められる。
（「答申」（2016）p. 62）

カ　単元の中で，子供が学習の見通しをもって学習に取り組み，その学習を振り返る場面を適切に設定する。

高等学校における懸念

○　観点別学習状況の評価については，小・中学校と高等学校とでは取組に差があり，高等学校では，知識量のみを問うペーパーテストの結果や，特定の活動の結果などのみに偏重した評価が行われているのではないかとの懸念も示されているところである。
（中略）高等学校教育においても，指導要録の様式の改善などを通じて評価の観点を明確にし，観点別学習状況の評価を更に普及させていく必要がある。　（「答申」（2016）p. 63）

キ　高等学校では，観点別評価が全校実施となったことから，本研究においてもペーパーテストの結果にとどまらず，単位時間ごとに評価規準を設定し，普段の授業の中で，観点に照らして多面的で多角的な評価を行うようにする。

評価者としての能力向上

○　教員一人一人が，子供たちの学習の質を捉えることのできる目を培っていくことができるよう，研修の充実等を図っていく必要がある。特に，高等学校については，義務教育までにバランス良く培われた資質・能力を，高等学校教育を通じて更に発展・向上させることができるよう，教員の評価者としての能力の向上の機会を充実させることなどが重要である。
（「答申」（2016）p. 63）

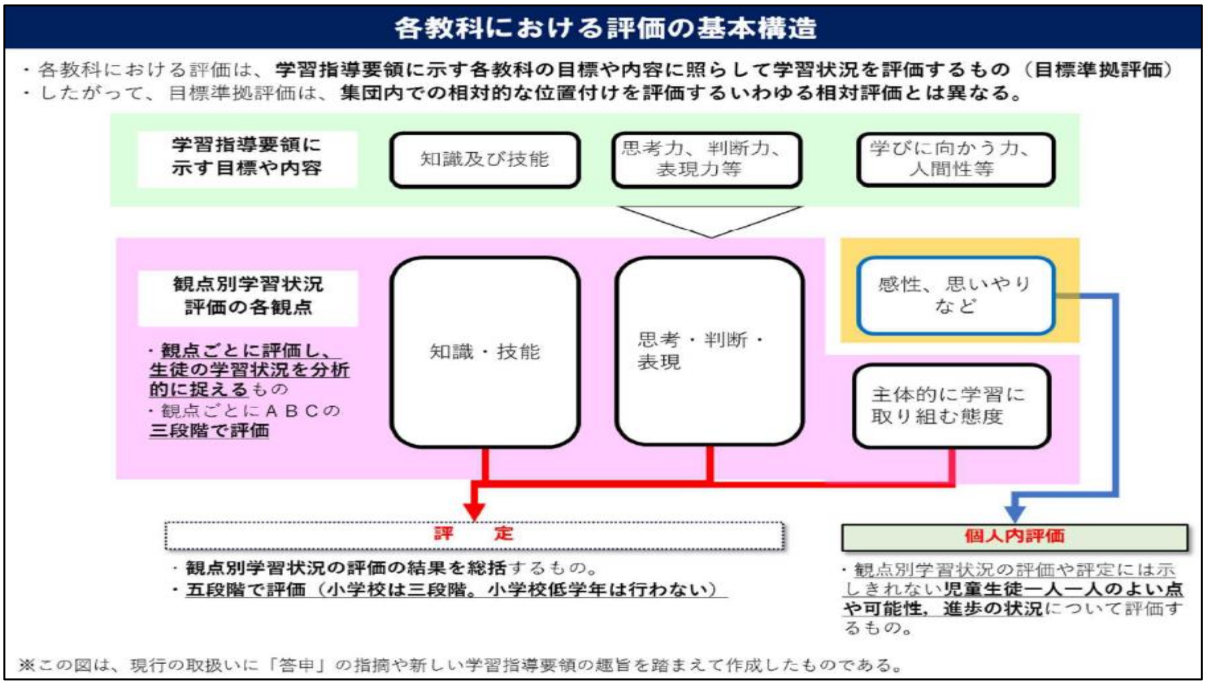
ク　指導と評価の一体化を念頭に，評価すべき観点を明確にして，生徒の資質・能力を育むことができる授業を組み立てる。

２　評価の基本的な枠組み

学習評価の基本的な枠組みについて「学習評価の在り方」(2019)では，「学習評価の基本的な枠組み」について，次のように述べています。

> ○　学習評価は，学校における教育活動に関し，児童生徒の学習状況を評価するものである。
> 現在，各教科の評価については，学習状況を分析的に捉える「観点別学習状況の評価」と，これらを総括的に捉える「評定」の両方について，学習指導要領に定める目標に準拠した評価として実施するものとされており，観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童生徒一人一人のよい点や可能性，進歩の状況については，「個人内評価」として実施するものとされている。
> （「学習評価の在り方」(2019）p. ６）

また，観点別評価については，目標に準拠した評価の実質化や，教科・校種を超えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から，小・中・高等学校の各教科を通じて，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３観点に整理することとしています。



【図３】　各教科における評価の基本構造　　（「学習評価の在り方」(2019）p. ６）

「知識・技能」の評価の基本的な考え方

中央教育審議会　初等中等教育分科会　教育課程部会から出された「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）の概要（以下「学習評価の在り方（概要）」という）」（2019）では，「知識・技能」の評価並びにその評価方法について，次のように述べています。

【表８】「知識・技能」の評価とその評価方法　　（「学習評価の在り方（概要）」（2019）p. ３）

	評　　価	評価方法
知識・技能	各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに，それらを既有の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で，概念等として理解したり，技能を習得したりしているかについて評価する。このような考え方は，現行の「知識・理解」，「技能」の観点別評価においても重視してきたところ。	事実的な知識の習得を問う問題と，知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテストの工夫改善，児童生徒の文章による説明や，観察・実験，式やグラフでの表現など，実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど，多様な方法を各教科等の特質に応じて適切に取り入れる。

「思考・判断・表現」の評価の基本的な考え方

「学習評価の在り方（概要）」(2019) では，「思考力，判断力，表現力等」の評価並びにその評価方法について，次のように述べています。

【表９】「思考・判断・表現」の評価とその評価方法　（「学習評価の在り方（概要）」(2019) p. 3）

	評　価	評価方法
思考・判断・表現	各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうかを評価する。このような考え方は，現行の「思考・判断・表現」の観点別評価においても重視してきたところ。	ペーパーテストのみならず，論述やレポート，発表，グループでの話合い，作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり，それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど，各教科等の特質に応じて評価方法を工夫する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の基本的な考え方

「三つの柱」の一つである「学びに向かう力，人間性等」には，①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と，②観点別評価や評定にはなじまず個人内評価を通じて見取る部分があることに留意が必要とされています。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては，単に継続的な行動や積極的な発言等を行うなど，性格や行動面の傾向を評価するということではなく，知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりするために，自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。学習前の診断的評価のみで判断したり，挙手の回数やノートの取り方などの形式的な活動で評価したりするものではない。実際，現行の「関心・意欲・態度」の観点について，挙手の回数や毎時間ノートを取っているかなど，性格や行動面の傾向が表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない現状があります。

子供たちが自ら学習の目標を持ち，進め方を見直しながら学習を進め，その過程を評価して新たな学習につなげるといった，学習に関する自己調整を行いながら，粘り強く知識及び技能を獲得したり思考，判断，表現しようとしたりしているかどうかという，意思的な側面を捉えて評価することが求められます。

「学習評価の在り方（概要）」(2019) では，「主体的に学習に取り組む態度」の評価並びにその評価方法について，次のように述べています。

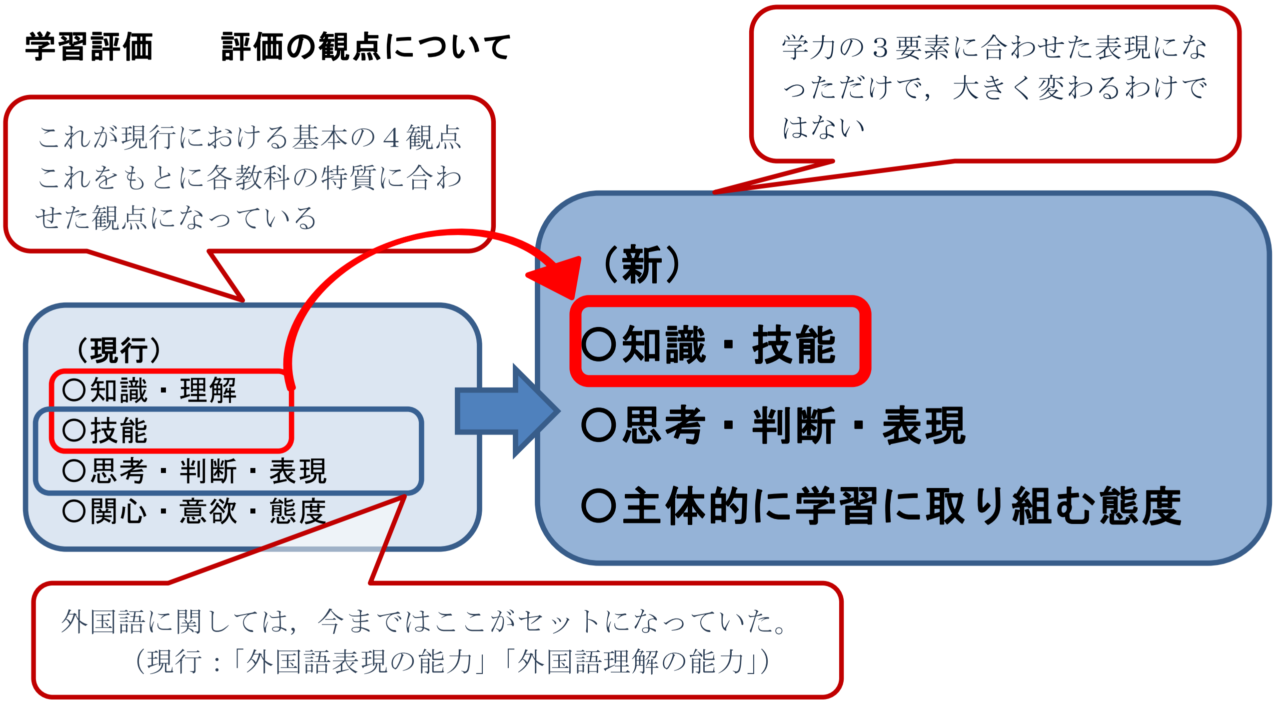
【表 10】「主体的に学習に取り組む態度」の評価とその評価方法（「学習評価の在り方（概要）」(2019) p. 3）

	評　価	評価方法
主体的に学習に取り組む態度	①　知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面 ②　①の粘り強い取組の中で，自らの学習を調整しようとする側面 という二つの側面を評価することが求められる。実際の評価の場面においては，双方の側面を一体的に見取ることも想定される。	ノートやレポート等における記述，授業中の発言，教師による行動観察や，児童生徒による自己評価・相互評価の状況の考慮など，各教科等の特質に応じた多様な方法を工夫する。

３　外国語科の評価の観点及びその趣旨

「審議のまとめ」(2016) に示されていることを整理すると，学習評価の観点については次のようになる。

学習評価　　評価の観点について



（「審議のまとめ」(2016) pp. 56-57を参考にして作成 ）

また，「外国語WG審議のまとめ」(2016) では，「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に対する各観点のポイントを次のように述べています。

各観点のポイント

＜知識・技能＞

× 語彙・表現や文法などの知識の習得
○ 活用して実際のコミュニケーションを図ることができるような知識
○ 自律的・主体的に活用できる技能

（「外国語WG審議のまとめ」(2016) p. 10)

＜思考・判断・表現＞

コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて：
○ 聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解する
○ 話したり書いたりして適切に表現する
○ 情報や考えなどの概要・詳細・意図を伝え合うコミュニケーションができているかどうか

（「外国語WG審議のまとめ」(2016) p. 10)

＜主体的に学習に取り組む態度＞

○ コミュニケーションへの関心を持ち，自ら課題に取り組んで表現しようとする意欲や態度を身につけているかどうか

（「外国語WG審議のまとめ」(2016) p. 10)

また，文部科学省初等中等教育局教育課程課から出された「小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（2019）の別紙４及び別紙５では，評価の観点及びその趣旨について，下の【表 11】のように整理している。

【表 11】外国語科における評価の観点及びその趣旨　（「学習評価の在り方」（2019）別紙４・５）

	小学校 外国語活動	小学校 外国語	中学校 外国語	高等学校 外国語
知識・技能	・外国語を通して，言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	・外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどについて，日本語と外国語との違いに気付き，これらの知識を理解している。 ・読むこと，書くことに慣れ親しんでいる。 ・外国語の音声や文字，語彙，表現，文構造，言語の働きなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解している。 ・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	・外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどについて理解を深めている。 ・外国語についての音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	身近で簡単な事柄について，外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，身近で簡単な事柄について，聞いたり話したりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ・コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり，語順を意識しながら書いたりして，自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態	外国語を通して，言語やその背景にある文化に対する理解を深め，相手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，他者に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

4　外国語科におけるパフォーマンス課題とルーブリック

「外国語を用いて何ができるようになるのか」という視点から単元全体を見通し，単元計画と年間の到達目標とが有機的につながるよう，単元・年間を通して「聞くこと」「話すこと（やりとり）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」について，全ての観点から総合的に評価することが大切です。知識を「知っている」だけでなく，「使える」力までつけたいと考えると，評価方法は「知識を測るペーパーテスト」だけでは不十分であり，知識やスキルを状況において使うパフォーマンスを評価することが必要となります。ここでは，「パフォーマンス課題」とその評価の内容を示す「ルーブリック」について説明します。

（１）　パフォーマンス評価とは

「答申」（2016）の補足資料では，パフォーマンス評価について，次のように説明しています。

「パフォーマンス評価」

知識やスキルを使いこなす（活用・応用・統合する）ことを求めるような評価方法。

論説文やレポート，展示物といった完成作品（プロダクト）や，スピーチやプレゼンテーション，協同での問題解決，実験の実施といった実演（狭義のパフォーマンス）を評価する。

（「答申」（2016）補足資料）

このために，生徒に提示される課題を「パフォーマンス課題」と呼び，単元で学んだ要素を総合して取り組む「まとめの課題」として単元の中に位置付けることが考えられます。

「パフォーマンス課題」を与えることによる効果は，

ア　１対１のテストで今まで見えなかった生徒の姿が見える。

イ　パフォーマンス課題に向けて，どう勉強（練習）すれば良いかを教えると生徒は主体的に動き始める。

ウ　実際のコミュニケーションの場面に段階的に近づけることで，「英語が使えた」「伝えられた」という自己肯定感，やる気につながる。

ということが考えられます。

（２）　パフォーマンス課題のつくり方

パフォーマンス課題とは幅広く，「エッセイ」「レポート」「作品の制作」「プレゼンテーション」「ディベート」等が様々な形態が考えられます。

様々なパフォーマンス課題

コミュニケーションの６つの類型

		Written	Oral
一方向	理解	Reading Comprehension	Listening Comprehension
	表現	Written Expression	Oral Expression
双方向		Written Interaction	Oral Interaction

Written Expression→ライティングテスト，エッセイテストなど
Written Interaction→手紙の返事テスト，メール返信テスト，チャットなど

Oral Expression→スピーキングテスト，スピーチ，プレゼン，音読での表現など
Oral Interaction→インタビューテスト，スキット，ディベート，ディスカッションなど

パフォーマンス課題は，「本単元における学習課題」に関連させて設定することを目指し，生徒にとって思考する必然性があるものとなるように留意することが必要です。なお，本研究においてパフォーマンス課題をつくる際には，『「資質・能力」を育てるパフォーマンス課題　アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』西岡加名恵（2016）を参考に，次の①～④の手順を踏まえながら，作成していきます。

「パフォーマンス課題づくり」

①単元の重点目標は何か見当を付ける
②「本質的な問い」を明確にする　　→単元構想シート：本単元における「学習課題」に基づく
③その問いに対してどのようなレベルに達してほしいか明文化する
　　　　　　　　　　　　　　　　　→単元構想シート：本単元における「期待する姿」に基づく
④パフォーマンス課題のシナリオを作る
　＜パフォーマンス課題を作る際の視点＞
　　妥当性：測りたい学力に対応しているか
　　真正性：リアルな課題になっているか，現実世界で試されるような力に対応しているか
　　切実さ：生徒たちの身に迫り，やる気を起こさせるような課題か
　　難易度：生徒たちが背伸びすれば手が届く程度の，ちょうどよい難度か
（『「資質・能力」を育てるパフォーマンス課題　アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』西岡加名恵（2016）を参考に作成）

（３）　ルーブリックの活用とそのメリット

パフォーマンスを評価する場合は，評価の「観点」や「レベル」や「規準の説明」が必要になってきます。ルーブリックはそれを表形式にまとめたものです。「答申」(2016)の補足資料において，ルーブリックについて，次のように説明されています。

「ルーブリック」

成功の度合いを示す数レベル程度の尺度とそれぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴を示した記述語（評価規準）からなる評価基準表。　　　　　　（「答申」(2016) 補足資料）

本研究においては，単元構想シートの「期待する姿」に基づきながら，ルーブリックを５段階で作成していきます。このルーブリックは，生徒に示し，目指す姿を生徒が理解して学習に取り組めるようにします。

本研究において行った中学校における実践１で活用した「ルーブリック」は以下の通りです。

中学校の実践１における「ルーブリック」

パフォーマンス評価	学校名	
単元名 「My Project4　スキット作りを楽しもう」	対象学級	
	生徒数	
	担当者	

１　パフォーマンス課題

生放送の街頭インタビューができる！　花巻空港にいる外国人に英語でインタビューしよう

２　ルーブリック

5	4	3	2	1	得点
A		B	C		
インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて質問を２つ以上加えたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて質問を加えたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり共通の質問をしたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容をある程度理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり共通の質問をしたりしながら40秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，40秒対話をつなげていない。	

このようなルーブリックを活用することのメリットは，以下のようなことが挙げられます。

【教員にとって】
〇　ルーブリックを先につくることで求めるレベル（質・量）が明らかになる
〇　複数人数でも採点がぶれにくい
〇　リストにチェックするだけで採点しやすい
〇　フィードバックをすぐに返せる
【生徒にとって】
〇　事前に指標を示されるので，求められる観点やレベルを先に理解できる
〇　リストのチェックを見ると，フィードバックになる

主観や印象で評価されがちな技能が，より客観的に評価できるようになるばかりか，生徒が自己の到達状況を客観的に把握し，明確な目標をもってパフォーマンス課題に取り組むことができるようになります

Ⅳ　実践事例

事例１　中学校２学年（平成 29 年７月実施）

（１）　単元構想シート

外国語科単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する		
単元名 「My Project4 スキット作りを楽しもう」	対象学級	
	生　徒　数	
	担　当　者	

１　単元の目標（何ができるようになるか）※ 評価規準は，単元の目標に準拠する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりすることができる。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげることができる。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

２　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

〇英語で表現し伝え合うため，
〇自分がした質問に対する外国人の答えを，
〇日本に来た外国人の気持ちに配慮しながら受け止め，
〇相づちをうったり気持ちを伝えたり質問を加えたりして対話をふくらませていくこと。

３　単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」

【単元の学習課題】
コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か。

【期待する姿】
インタビューアーとして，相手のことを考えながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問をしたりしながら 60 秒対話をつなげている。

４　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
相手の話したことに対して，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問している。	相手に配慮しながら，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら対話をつなげている。	相手に配慮しながら，主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・課題を明確に示す。 ・振り返りの場面を設定する。 ・実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。	・ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動を取り入れる。 ・教員と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。 ・やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力を育成する。	・目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。 ・身につけた知識・技能を活用し，アウトプットする統合的な言語活動を行う。

5　単元の指導と評価の計画（全４時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点（◎），それ以外（○）
1	**【最終到達目標の理解・把握】** **【単元のゴール達成のための内容理解】**	**【主体的に学習に取り組む態度】** ビデオを見たりルーブリックを確認することにより，最終的に目指す姿をイメージしようとしている。 **【知識・技能】** 既習事項を生かしながら，相手の話す内容について相づちをうったり質問したり気持ちを伝えたりして対話を広げる方法を身に付けている。 **［発言，観察，ワークシートへの記述］**	■目指す姿をイメージしながら，対話のつなぎ方を理解できる。 ○コミュニケーションを豊かにするうえで大切なことは何か，学習前の自分の考えをもつ。 ◎ビデオを見たりルーブリックを確認したりすることにより，最終的に目指す姿をイメージする。 ○短い対話文をいくつか使い，ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
2	**【単元のゴール達成に向けての練習】**	**【思考・判断・表現】** ペアやグループなどで友達の反応の仕方を観察し，良い部分を取り入れながら，話題の中心となる語から対話をつなげている。 **［発言，観察，ワークシートへの記述］**	■対話のバリエーションを増やすことができる。 ○対話をつなぐために大切なことを確認し，ペアで対話をする。 ○インタビューアー役と外国人役を決め，それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に対話する。 ◎ペアで対話するなかで，友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れる。
3	**【単元のゴール達成に向けての練習】**	**【思考・判断・表現】** 仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身に付けている。 **［発言，観察，ワークシートへの記述］**	■仲間とともに考え工夫しながら，よりよい対話のつなげ方を身につけることができる。 ○ペアで協力してインタビューに挑戦し，よりよい対話のつなげ方を習得する。 ◎グループ内での気づきを大切に，インタビューの向上に取り組む。
4	**【単元のゴールとなるアウトプット活動】** **【単元の振り返り】**	**【思考・判断・表現】** インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり質問したりしながら 60 秒対話をつなげている。 **【主体的に学習に取り組む態度】** 相手に配慮しながら，粘り強くコミュニケーションを図ろうとしている。 **［発表，観察，ワークシートへの記述］**	■花巻空港にいる外国人に英語でインタビューすることができる ◎街頭インタビューに挑戦する。 ○自分の発表とクラスメイトの発表を通して，よりよい対話のつなげ方についての理解を深める。 ○これまでの学習を振り返る。

（２）学習チェック（振り返り）シート

> 単元の導入において，この単元の「ゴールの活動（パフォーマンス課題）」を提示

学習チェックシート

Class(1)Name(

My Project4　スキット作りを楽しもう

ゴールの活動	花巻空港からのＴＶの生中継で、日本を訪れる外国人に60秒インタビューできる。 ☆２人１組でインタビューしよう。 ☆質問するだけでなく、相づちしたり、感想や気持ちを伝え、さらに質問を加えるなどして60秒対話を続けよう。

単元全体の学習の見通し

各時間の目標	①対話のつなぎ方を理解できる	②対話のバリエーションを増やすことができる。	③…メージを持つことができる。	④生放送の街頭インタビューができる。
日にち	7/6	7/9	7/10	7/12
目標の評価	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C
	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C
振り返り	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 今日の授業をするまでは、オーバーリアクションはあまり使っていなかったけど、会話をつなげたり、伝えたりするために大切だと分かった。 そういうテクニックが対話をつなぐのに生きるんだね。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 昨日までは、同じ質問や同じリアクションしかできなかったけど、今日やってみて「Why not?」や「Do you know～?」など、ほかの人のをまねしてたくさん言うことができたので、よかった。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 ペアでやってみた。英語で言葉が詰まったときにお互いサポートし合えてよかった。相手の言ったことを感じ取って言えたので次もがんばりたい。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 本番では緊張してどっちが言うのか分からなくなることがあった。相手からの質問や答えに対してその場で知っている単語を組み合わせて言うことができた。

(A=よくできた、B=ややできた、C=あまりできなかった)

すごーい!! 今まで習ったのを上手に活用しているね！

すごく大事！みんなには相手の考えをくみとりながら対話する力をつけてほしい。

すごい！その場で瞬時にやりとりする力って すごく難しい…

> １単元のすべての授業の振り返りを１枚のシートに記述

あなたが英語の時間にコミュニケーションする上で大事だと思うことは何ですか？（Before Lessons）	あなたが英語の時間にコミュニケーションする上で大事だと思うことは何ですか？（After Lessons）
・分からなくても、とにかく知っている単語を使って伝えようと努力すること。 ・相手の英語に対してたくさん反応すること。	・相手の言ったことに対して何でもいいから反応して会話をつなぐこと。 ・会話がとぎれそうになったら自分から質問をしていくこと。

> 単元の学習前 ⇔ 変容の自覚 ⇔ 単元の学習後

ルーブリック（評価規準）

5	4	3	2	1	得点
A		B		C	
インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて2つ以上質問を加え話をふくらませたりたりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて2つ以上質問を加えたりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりペアで作成した質問をもとに質問したりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容をある程度理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりペアで作成した質問をもとに質問したりしながら40秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，40秒対話をつなげることができない。	5

> ルーブリックを単元導入時に提示。単元の学習中もゴールを意識して取り組む

メモ（他のペアの工夫している点や良い点をメモしよう） （例）〇〇ペアは〇〇している。	私の考えるMV…
	さんペア 理由　話をつなげようとする[redacted]さんと[redacted]さんの言いたいことに反応して話せる[redacted]さんがすごいと思ったから。

学習チェックシート

Class(1)Name(

My Project4	スキット作りを楽しもう
ゴールの活動	花巻空港からのＴＶの生中継で、日本を訪れる外国人に60秒インタビューできる。 ☆２人１組でインタビューしよう。 ☆質問するだけでなく、相づちしたり、感想や気持ちを伝え、さらに質問を加えるなどして60秒対話を続けよう。

各時間の目標	①対話のつなぎ方を理解できる	②対話のバリエーションを増やすことができる。	③街頭インタビューの準備をし、イメージを持つことができる。	④生放送の街頭インタビューができる。
日にち	7/6	7/7	7/10	7/12
目標の評価	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C	①Ⓐ・B・C
	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C	②Ⓐ・B・C
振り返り	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 相手に伝えようと思い、アイコンタクト、ジェスチャーなどが大切だということがよくわかりました。 英語を伝えるためにいろいろな方法があるんだよね。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 昨日より should などのバリエーションをふやすことができてよかったです。相手に別の質問をしたりもすることができてよかったです。 1つの話題から別の話題に変えることで対話がどんどん深まるね。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 最初は片方の人が一方的に質問をしてしまったりしてたけど、回数を重ねるごとに上手につなげれるようになっていったのでよかったです。	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。 間があいてしまったりしたけど、ペアで協力してなんとか60秒つなげようといろいろ相づちをしたりできたのでよかったです。

(A＝よくできた　B＝ややできた，　C＝あまりできなかった)

[redacted]くんを上手にサポートしていたね！

場に応じて2人でよく助け合ってたね！

あなたが英語の時間にコミュニケーションする上で大事だと思うことは何ですか？（Before Lessons）	あなたが英語の時間にコミュニケーションする上で大事だと思うことは何ですか？（After Lessons）
文にできなくても単語やジェスチャーなどで相手に伝えようという気持ち。	相づちやアイコンタクトなどをたくさんして、ジェスチャーなどもまぜながら何とか伝えようとする姿勢

ルーブリック（評価規準）

	5	④	3	2	1	得点
	A		B		C	
	インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて2つ以上質問を加え話をふくらませたりたりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて2つ以上質問を加えたりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりペアで作成した質問をもとに質問したりしながら60秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，相手の話す内容をある程度理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりペアで作成した質問をもとに質問したりしながら40秒対話をつなげることができる。	インタビューアーとして，40秒対話をつなげることができない。	

メモ（他のペアの工夫している点や良い点をメモしよう） （例）〇〇ペアは〇〇している。	私の考えるMVPペア
[redacted]さんと[redacted]さんのペアは話をふくらませようとがんばってつなげていた。	[redacted] [redacted] さんペア 理由 話をふくらませようとしていたから

（３）　パフォーマンス課題におけるルーブリック

パフォーマンス評価		
単元名 「My Project4　スキット作りを楽しもう」		

1　パフォーマンス課題

生放送の街頭インタビューができる！　花巻空港にいる外国人に英語でインタビューしよう

2　ルーブリック

5	4	3	2	1	得点
A		B	C		
インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて質問を2つ以上加えたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて質問を加えたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容をほぼ理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり共通の質問をしたりしながら60秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，相手の話す内容をある程度理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたり共通の質問をしたりしながら40秒対話をつなげている。	インタビューアーとして，40秒対話をつなげていない。	

外国人役の２人にはカードが１枚渡されており，「どこの国から来たか」「何をするつもりか」という設定が書いてあり，その設定から話を進めていく。

次の外国人役の生徒が，ＡＤ役を勤め，残り時間を提示する。

インタビューアーは事前に質問を２つ考えている。それに対する相手の答えから，更に話をふくらませながらインタビューを進めていく。１分間の枠の生中継を，外国人から情報を聞き出しながら対話をつなげる。

【生徒による実際の対話　１】

インタビューアー役	外国人役
A: Hello!	
	C&D: Hello!
A: We are ●●.	
B: And ■■.	
A: Welcome to Japan!	
	C&D: Thank you.
A: Where are you from?　(共通質問)	
	C: We're from Mongolia.
A&B: Oh!	
B: What are you going to do in Japan? (共通質問)	
	D: We're going to see the sumo.
A&B: Oh!	
A: Do you know Hakuho? (追加質問)	
	C: Yes.
A: Oh, I … He's from Mongolia.	
	C: Yes. I like Hakuho.
A&B: Oh!	
B: Do you like sumo? (追加質問)	D: Yes.
A: Oh, me too, me too!	
	D: Do you know *Chankonabe*?
A: Ah, yes! Yes! I like *Chankonabe*.	
	D: Oh, me too.
A: Oh, you should eat *Chankonabe*.	
	D: Very nice.
B: That's all from Hanamaki Park!	
A&B: Bye!	C&D: Bye!

【ルーブリックによる評価】
ＡＢともに，「インタビューアーとして，相手の話す内容を理解したうえで，相づちをうったり気持ちを伝えたりその場に応じて質問を加えたりしながら 60 秒対話をつなげることができた」ので**評価は【４】**。

【生徒による実際の対話　２】

インタビューアー役	外国人役
A: Hello!	
	C&D: Hello!
A: We are ●●.	
B: And ■■.	
A: Nice to meet you!	
	C&D: Nice to meet you, too.
A: Welcome to Japan!	
	C: Thank you.
A: Where are you from?（共通質問）	
	C: We are from India.
A&B: India!	
A: Ah… curry. Delicious curry.	
	C: Yes!
B: I like curry!	
	C: Me too.
B: Curry is very delicious.	
	C&D: Oh!
B: I like spicy curry.	
A: Me too, me too, me too!	
	C&D: Oh!
	D: Oh… I think… Me too!
B: What are you going to do in Japan? (共通質問)	
	D: We are going to visit Hiraizumi.
A: Hiraizumi!	
B: Oh, India! Chusonji is golden!	
	D: Great!
B: That's all from Hanamaki. Bye!	C&D: Good bye!

【ルーブリックによる評価】
ＡＢともに，「相づちをうったり気持ちを伝えたり共通の質問をしたりしながら 60 秒対話をつなげることができた」ので**評価は【３】**。

（４） 実践後の振り返り

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現について

（ア） 「主体的な学び」の実現に係る振り返り

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 12】に示します。

【表 12】「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「主体的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【興味・関心をもたせるための手立て】** ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。 ○身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 **【見通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】** ○ＣＡＮ-ＤＯリストを基に単元を通して目指す姿を明確に設定する。 ○ルーブリック等を用いながら教員が生徒と学習到達目標を共有する。 **【自らの学びを振り返らせ，次の学習につなげさせるための手立て】** ○言語面や内容面での振り返りを行う場面を設定する。 ○学んだことを共有する場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	○課題を明確に示す。 ○振り返りの場面を設定する。 ○実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。 振り返りの場面の設定 ビデオを活用した 「課題の明確化，課題の共有」
授業者の 振り返り （○成果，●課題）	○単元のねらい，ゴールをビデオを使って最初に生徒に提示し，目指す姿を共有できた。そうすることで，生徒が具体的な目標を持ち，最後のパフォーマンス課題に向かって，単元を通して意欲的に取り組む姿勢が生まれた。　**（課題の明確化，課題の共有）** ○テレビの生放送で，外国人観光客に花巻空港で 60 秒間インタビューするという場面を設定することで，インタビューするため，対話をつなぐため，たくさんの情報を聞き出すためにどうすればよいか何度も繰り返し生徒と共有できた。 **（実際のコミュニケーションに近づけた場面設定）** ○英語で対話をつなぐやりとりの中で，現在の自分たちの力がどのくらいなのかを自分自身で把握させるようにした。多くの生徒が「難しい。」「どうすればいいんだろう。」と感じていた。それによって，どうすればもっとできるようになるか目標に向かって目的を理解しながら学ぼうとする生徒が増えたように思った。 **（課題の明確化）** ○振り返りシートに「学んだことや大切だと思うこと」を毎時間記入させた。それによって現在の自分の力を把握でき，今後身に付けたい力を具体的に考えながら授業に臨んでいるように見えた。　**（振り返りの場面設定）** ●一人ひとりに挙手させたり，振り返りの場面で生徒に発表させる機会を作ることができなかった。　**（振り返りに必要な時間の計画的な設定）** ●一番最初にルーブリックを提示できたが，提示するだけで活かすことができなかった。 **（単元のゴールを単元通して意識させるための工夫）**

（イ）　「対話的な学び」の実現に係る振り返り

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 13】に示します。

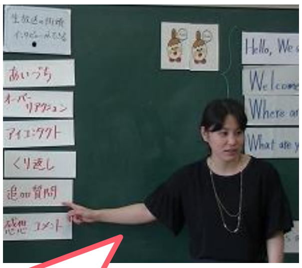
【表 13】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「対話的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】** ○やりとりする中で題材について理解させたり（例：Teacher Talk や Oral Introduction 等），意見や考えを交流させたりする場面を設定する。 ○それぞれの活動の目的に合わせて，ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する。 （例：相手を換え，対話させる機会を増やす等） **【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】** ○お互いの存在や考えを尊重するなど，相手意識をもたせ安心して言語活動に取り組む親和関係を築かせる。 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	○ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動を取り入れる。 ○教員と生徒または生徒同士によるやりとりをする場面を増やす。 ○やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力を育成する。 ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動 双方向による コミュニケーション能力の育成
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○クラスを２グループに分け，それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に対話することで，生徒同士のやりとりを増やした。　**（生徒同士によるやりとりをする場面設定）** ○たくさんの人とやりとりすることで友達の反応の仕方を観察し，自分に取り入れることができていた。　**（双方向によるコミュニケーション能力の育成）** ○生徒は対話をつなぐため，互いに相談し合って作戦を考えたり，もっと良いものにするために改善点を助言し合っていた。 **（ペアやグループ内で情報や意見，考えを伝え合う活動）** ●それぞれ列を作って向かい合った者同士で一斉にやりとりする活動では，一部の生徒のやりとりを見れたが，全てのペアを見とることは難しかった。 **（見取る対象を重点化する観察の工夫）** ●生徒同士の良いやりとりを全体へ提示する機会をあまり作れなかった。 **（意図的な学びの共有の工夫）** ●対話の内容がワンパターン化していた。　**（幅広い表現を追求する意識の促進）**

（ウ）　「深い学び」の実現に係る振り返り

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 14】に示します。

【表 14】「深い学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「深い学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【資質・能力の３つの柱が総合的に活用・発揮させるための手立て】** ○共有した学習到達目標を達成するために，新しく学ぶ内容だけではなく既習内容を関連付けさせて解決していく意識をもたせる。 ○「教える場面」と「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現させる場面」を効果的に関連付けさせる。 ○教科書の内容について読み取ったことや，自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて，発表させたり対話させたりするなど，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。 ○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指し，目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。
本単元における手立て（重点）	○目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。 ○身に付けた知識・技能を活用し，アウトプットする統合的な言語活動を設定する。 目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動の設定  身に付けた知識・技能を活用していく意識づけ
授業者の振り返り（○成果，●課題）	○対話をつなぐため，あいづちや繰り返し，オーバーリアクションやアイコンタクト，感想や質問をすることが有効であると教科書から学び，実際にやり取りする中で既習事項で活用できるものをペアで相談して取り入れていた。 **（既習内容を関連付けさせて解決していく意識づけ）** ○初めて日本を訪れる外国人に街頭インタビューをするという設定により，より深く日本を知っていないと相手に伝えられないということに気がつく生徒もいた。 **（教える場面と「見方・考え方」を働かせて思考・判断・表現する場面の効果的な関連付け）** ○外国人役には予めカードを用意して設定を決め，やりとりをさせた。その結果，60 秒内で効率よくやりとりすることができた。**（目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動の設定）** ●毎回振り返りの時間が短く，生徒をせかす形で振り返りをしてしまった。 **（計画的な振り返りに必要な時間の設定）** ●コミュニケーションが苦手な生徒は，相手に任せっぱなしの状況がある。 **（高め合う意識の促進）** ●今回は「話すこと」に重点をおいて活動したが，「書くこと」につなげることができなかった。**（統合的な言語活動の設定）**

事例２　中学校２学年（平成 29 年８・９月実施）

（１）　単元構想シート

外国語科単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する

単元名	対象学級	
「PROGRAM5 Gulliver's Travels」	生　徒　数	
	担　当　者	

1　単元の目標（何ができるようになるか）※ 評価規準は，単元の目標に準拠する。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
必要な情報を紹介したり，自分の考えや気持ちなどを伝えたりするための文法や表現を既習事項から選択し，運用することができる。	おすすめの国の魅力について，聞き手を配慮しながら，その国の情報に自分の考えや気持ちを付け加えて，伝えることができる。	日本及び世界の国々やその文化に対する理解を深め，聞き手に配慮しながら主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

2　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

〇英語で表現し伝え合うため，
〇世界の国々の情報を，
〇その国のことを知らない聞き手に配慮しながらその魅力を捉え，
〇伝えたい情報を整理し自分の考えや気持ちを付け加えていくこと。

3　単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」

【単元の学習課題】
相手意識をもって，どのように国の魅力を伝えるか。

【期待する姿】
おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて，グループで５分間プレゼンテーションしている。

4　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
必要な情報を紹介したり，自分の考えや気持ちなどを伝えたりするための文法や表現を既習事項から選択し，運用している	おすすめの国の魅力について，聞き手を配慮しながら，その国の情報に自分の考えや気持ちを付け加えて，伝えている。	日本及び世界の国々やその文化に対する理解を深め，聞き手に配慮しながら主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び）
・単元の目的，ゴールや授業の流れを示し，明確な見通しをもたせる。 ・実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。 ・ポートフォリオでのワークシートを活用し，学んだことを交流する振り返りの場面を設定する。	・ペアやグループ内で情報や考えを伝え合う場面を取り入れる。 ・教員や生徒，生徒同士によるやりとりの場面を増やす。 ・相手意識をもった表現に向けた自分の考えを深めさせるための，ペアやグループなどによる協働的な学びの場面を設定する。	・資料から得た情報や自分の考え，気持ちなどについて対話させたり発表させたりして，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。 ・日本や世界の国々への理解を深めさせ，聞き手を意識しながら伝える気持ちを育成する。

5　単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点(◎)，それ以外(○)
1	【最終到達目標の理解・把握】 【単元のゴール達成のための内容理解】	【主体的に学習に取り組む態度】 ルーブリックを基に単元のゴールの明確なイメージをもとうとしている 【知識・技能】 「There is ～. There are ～.」構文の用法を理解し，絵に合わせてペア内で英語で伝えている。 ［発言，観察，ワークシートへの記述］	■単元のゴールをイメージした上で，人や物の存在について英語で言うことができる。 ◎単元の目的，ゴールについて共有する。 ○「There is ～. There are ～.」構文を用いて，ペアで物や人の位置や場所を英語で言い合う。
2	【単元のゴール達成のための内容理解】	【知識・技能】 英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えている。 ［観察，ワークシートへの記述］	■ガリバー旅行記の大まかなストーリーを理解できる。 ○教員による Teacher Talk を聞き，ペアで内容を想像する。 ○教科書を音読する。 ◎ＱＡやペアでのやり取りを通し，内容を把握する。 ○海外の様々な写真を見て，人や物の存在についてペアの人に説明する。
3	【単元のゴール達成のための内容理解】	【主体的に学習に取り組む態度】 単元のゴールへの見通しをもちながら，好きな国について，新出文法を用いて紹介する文を書こうとしている。 ［観察，ワークシートへの記述］	■When や If を用いて，国の写真を見てその国を一文で紹介することができる。 ○接続詞 when と if の用法を理解する。 ○写真を使って，国を紹介する文を一文考え，グループ内で伝え合う。 ◎国を紹介する文をワークシートに短文で書く。
4	【単元のゴール達成のための内容理解】	【知識・技能】 英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉えている。 ［観察，ワークシートへの記述］	■ガリバーが日本で訪れた場所を読み取ることができる。 ○教員による Teacher Talk を聞き，ペアで内容を想像する。 ○教科書を音読する。 ◎ＱＡやペアでのやり取りを通し，内容を把握する。 ○教科書 pp. 48-49 を参考にし，ペアで京都についてマッピングを用いて情報を伝え合う。
5	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考・判断・表現】 マッピングを用いて，伝えたい内容を情報整理し，英語で表現している。 ［観察，ワークシートへの記述］	■マッピングを用いて，友達に日本の魅力について 40 秒で伝えることができる。 ○単元のゴールを再確認する。 ○教員によるマッピングの使い方を聞く。 ◎学級を 2 グループに分け，それぞれ列を作って向かい合ったもの同士で 40 秒間日本を紹介する。

6	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考・判断・表現】 プレゼンテーションを想定し，グループで協力して情報収集している。 ［観察，ワークシートへの記述］	■おすすめの国について，伝えたい内容を見つけ，情報を整理することができる。 ○グループで発表する国を決定する。 ◎おすすめの国について，グループでどんなことを伝えるか資料を見て情報を収集する。 ○伝える内容について，グループで担当を決める。
7	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考・判断・表現】 グループでの協働的な学びのなかで，相手意識をもって伝えるためのマッピングを作成し，それを用いて表現している。 ［発言，観察］	■グループでマッピングを作り，それを基におすすめの国の情報や自分の気持ちを表現することができる。 ○日本をモデルにし，マッピングを用いて情報をペアに伝える。 ○教員によるモデル提示を見る。 ◎プレゼンテーションをする国について，グループでマッピングを作成し，それを基に英語で伝える。
8	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考・判断・表現】 グループでの協働的な学びのなかで，発表用の資料を作成し，発表内容を深めている。 ［発言，観察］	■プレゼンテーションの内容をさらに深めるができる。 ◎プレゼンテーションをする国について，グループで協力しながら英語で表現する。 ○グループ内で写真などを切り貼りし，プレゼンテーション用の資料を作成する。
9	【単元のゴール達成に向けての練習】	【思考・判断・表現】 学習したプレゼンテーションの仕方を活用して準備に取り組み，他のグループの発表や教員の助言をもとにプレゼンテーションの向上に取り組んでいる。 ［観察，ワークシートの記述］	■自分たちの発表やクラスメイトの発表を通して，プレゼンテーションをよりよくすることができる。 ○５分間を設定し，各グループでプレゼンテーションの練習をする。 ○教員や他のグループを相手に実際にリハーサルをし，イメージを持つ。 ◎自分の発表とクラスメイトの発表を通して，プレゼンテーションの向上に取り組む。
10	【単元のゴールとなるアウトプット活動】 【単元の振り返り】	【思考・判断・表現】 伝える内容を整理し，既習事項を用いながらグループで自分たちのおすすめの国を英語で５分間プレゼンテーションしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 聞き手に配慮しながら，粘り強く国の魅力を伝えようとしている。 ［発表，ワークシートの記述　］	■おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて，グループで５分間プレゼンテーションすることができる。 ◎各グループ５分でプレゼンテーションをする。 ○クラスメイトの発表から情報を得る。 ○自分の発表とクラスメイトの発表を通して，よりよいプレゼンテーションについての理解を深める。

（２）　学習チェック（振り返り）シート

単元の学習前

（Before Lessons）
初めて日本を訪れる外国人に日本を紹介することになりました。紹介文を書いて下さい。

Tokyo has a lot of places.
You should go to Ueno zoo.
You can see panda.
I think that Tokyo is wonderful city.

超完ぺきです。すごすぎ!!

変容

単元の学習後

（After Lessons）
初めて日本を訪れる外国人に日本を紹介することになりました。紹介文を書いて下さい。

There are many places in Japan.
Do you know Tokyo Disneyland?
It's very popular.
If you go to Disneyland, you can meet characters and you can take pictures.
I think that you can enjoy there. You should go to Disneyland.

学習チェックシート　Class (　　) No (　　)

単元の導入において，この単元の「ゴールの活動（パフォーマンス課題）」を提示

１単元のすべての授業の振り返りを１枚のシートにまとめて記述

PROGRAM 5　Gulliver…

ゴールの表現活動	PRESENTATION : Our Favorite Country. ☆おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、グループで５分間プレゼンテーションをすることができる。

単元全体の学習の見通し

時	各時間の目標	日にち	評価	今日学んだことや気がついたこと、大切だと思ったことを書きなさい。	
1	GOAL 「There is ～. There are ～.」の形・意味・用法を理解することができる。	8/24	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、絵を描いて「There is ～, There are ～.」の使い方を覚えることができました。数を忘れないように言うことや、複数形のｓをつけることを気をつけたいです。	どんどん言って覚えよう
2	GOAL ガリバーが日本で訪れた場所を読み取ることができる。	8/26	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、教科書の読みとりをして、長い文もあったけれど、文の意味を考えながら単語の発音にも気をつけて読めたのでよかったです。	すばらしい
3	GOAL WhenやIfを用いて、国の写真を見てその国を一文で紹介することができる。	8/29	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、カードを使ったり文を書いたりして、whenとIfの使い方が分かったのでよかったです。	これから どんどん 使ってこう
4	GOAL ガリバーが日本で訪れた場所を読み取ることができる。	8/30	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、グループを変えてやってみて、協力することができたし使い方も昨日より覚えられました。読みとりもしっかりできたのでよかったです。	学びが深まりましたね
5	GOAL マッピングを用いて、おすすめの国の情報や自分の気持ちや考えを表現することができる。	9/5	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、マッピングを作って、本を見ながら情報を集めて整理できました。話すのは難しかったので次の時間練習したいです。	話すことで頭の中の言えるようにするよ！
6	GOAL プレゼンテーションの内容をさらに深め、練習をすることができる。	9/6	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、プレゼンの練習をしました。相手に質問をすることができたので、次は自分の考えも入れて話したいです。	グループでぜひ共有を
7	GOAL プレゼンテーションの準備をし、発表のイメージを持つことができる。	9/7	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①A ②A）	今日は、他のグループとも交流して、話すことを工夫しているなと思いました。伝えたいことを分かりやすいように話せたと思うのでよかったです。	人のを見ることも良い学びになるよね
8	GOAL おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、グループで5分間プレゼンテーションすることができる。	9/11	①A・B・C・D ②A・B・C・D（①B ②A）	今日は、プレゼンテーションをしてみて、練習通りではなかったけれど、しっかり分かりやすく伝えられたのでよかったです。私はアメリカに行ってみたいと思いました。	

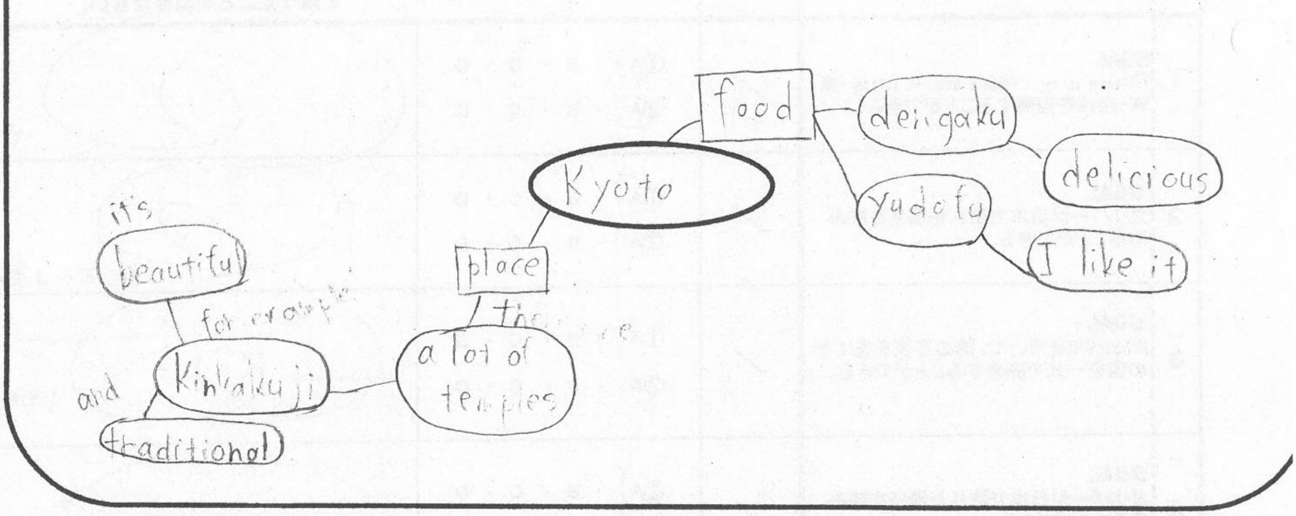
A:大変良い　B:まあまあ良い　C:あまり良くない　D:全くダメ

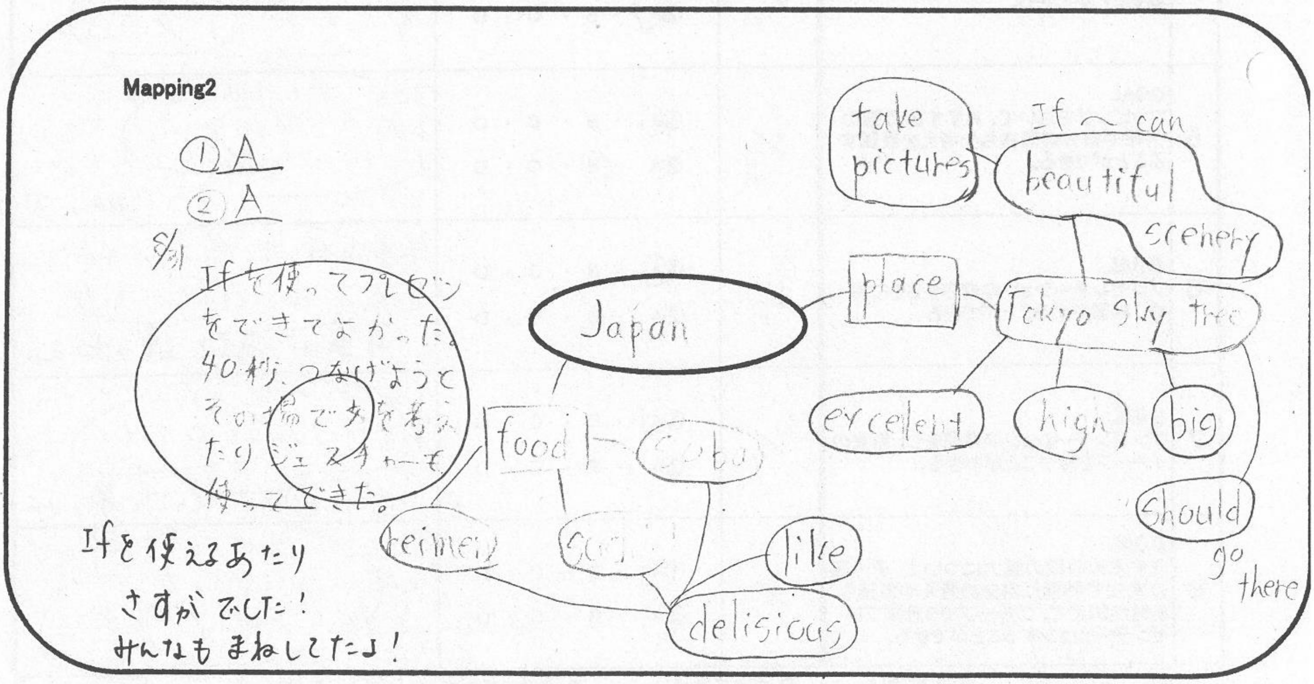
練習以上でしたよ！スラスラ言えていてとても良かったよ

	5 A	④	3 B	2	1 C	得
	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、聞き手に質問をしたり感想を聞くなど話題を膨らませながらグループで5分間プレゼンテーションをすることができる。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、聞き手に質問をしながらグループで5分間プレゼンテーションをすることができる。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、グループで5分間プレゼンテーションをすることができる。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴をグループで4分間プレゼンテーションをすることができる。	おすすめの国の魅力について、グループで4分間プレゼンテーションをすることができない。	

ルーブリックを単元導入時に提示。単元の学習中もゴールを意識して取り組ませる。

ゴールの活動に向けた言語活動で取り組んだマッピング





8/31 Ifを使ってプレゼンをできてよかった。40秒つなげようとその場で文を考えたりジェスチャーを使ってできた。

Ifを使えるあたりさすがでした！みんなもまねしてたよ！

（３）　パフォーマンス課題におけるルーブリック

パフォーマンス評価		
単元名 「　PROGRAM5 Gulliver's Travels　」		

1 パフォーマンス課題

PRESENTATION： Our Favorite Country

2 ルーブリック

5	4	3	2	1	得点
A		B	C		
おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、聞き手に質問をしたり感想を聞くなど話題を膨らませながらグループで5分間プレゼンテーションしている。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて、聞き手に質問をしながらグループで5分間プレゼンテーションしている。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴、自分の考えや気持ちを付け加えて、グループで5分間プレゼンテーションしている。	おすすめの国の魅力について、その国の文化や特徴を、グループで4分間プレゼンテーションしている。	おすすめの国の魅力について、グループで4分間プレゼンテーションしていない。	

１グループ４人でひとつの国の魅力を伝えるために，５分間のプレゼンテーションを行う。

事前に作成した写真資料とマッピングシートを使って発表する。

４人それぞれひとつずつのジャンルを担当し，１人およそ１分の発表をする。

【フランスを紹介したグループの実際のプレゼンテーション内容】

<Student A>

We are going to talk about France.
I'm going talk about place.
Do you know Mont-St-Michel? (Yes. / No.)
Look at this.
Mont-St Michel is island and church.
And beautiful.
And World Heritage site.

Look at this picture.
It's Versailles *Kyuden*.
Versailles *Kyuden* is beautiful and very old.
Versailles *Kyuden* is World Heritage site too.

I want to visit Mont-St-Michel and Versailles *Kyuden* because it's beautiful.
You should visit Mont-St-Michel and Versailles *Kyuden*.

【ルーブリックによる評価】「おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて，聞き手に質問をしながらグループで５分間（１人およそ１分）プレゼンテーションをすることができた」ので**評価は【４】**。

<Student B>

I am going to talk about popular thing.
Look at this picture.
This is the Eiffel Tower.
The Eiffel Tower is beautiful and high.
You should go, the Eiffel Tower.

Look at this picture.
This is Louvre Art Museum.
It is a lot of arts.
For example, Mona Lisa and Gogh *No Jigazo*.
Something else, it's *Chokoku*.
For example, Hammurabi book.

I want to visit.
Thank you.

【ルーブリックによる評価】「おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴，自分の考えや気持ちを付け加えて，グループで５分間（１人およそ１分）プレゼンテーションをすることができた」ので**評価は【３】**。

<Student C>

I am going to talk about popular things.
Look at this picture.
This is Notre Dame *Daiseido*.
Do you know Notre Dame *Daiseido*? (Yes. / No.)
It's in Chartres.
It is Christ Church *Daiseisdo*.
And many history.
And street symbol.
You should see from spring until summer, light up.
It is many colors light up, very beautiful.
I want to visit there because there are many many good place.
Thank you.

【ルーブリックによる評価】「おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて，聞き手に質問をしながらグループで５分間（１人およそ１分）プレゼンテーションをすることができた」ので**評価は【４】**。

<Student D>

I am going to talk about food.
This is Macron.
It's strawberry sweets. A lot of kind.
Macron is colorful color.
For example, pink Macron, green Macron, yellow Macron, and purple Macron.
What color do you like?
(Yellow! / Green! / Pink!)
I like pink Macron.

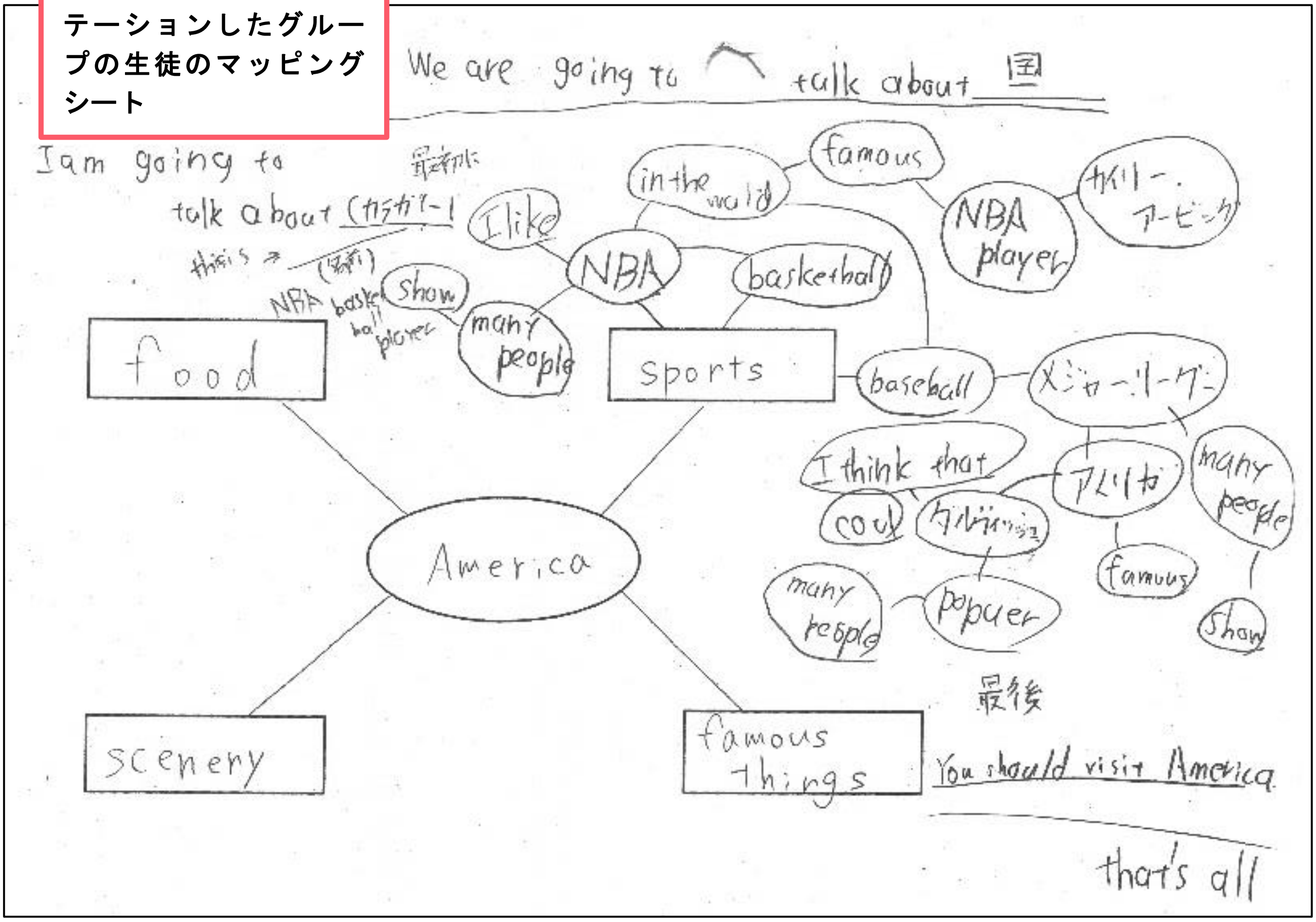
Next sweets, Éclair.
Do you know Éclair?
(Yes!)
It's a long.
Éclair is coffee and caramel taste.

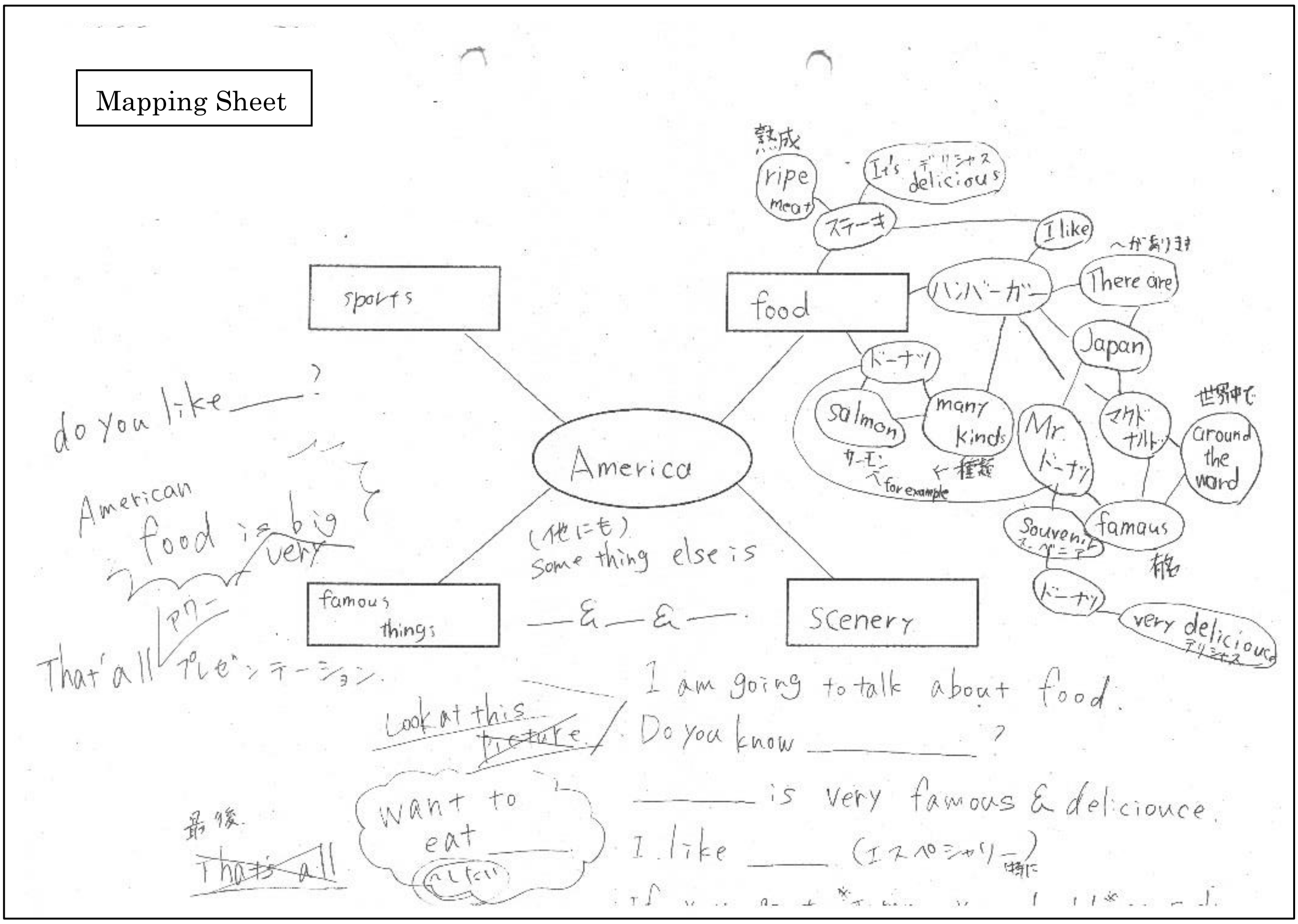
Next cookie is cake.
Cake is a lot of kind.
It's very sweets.

【ルーブリックによる評価】「おすすめの国の魅力について，その国の文化や特徴に自分の考えや気持ちを付け加えて，聞き手に質問をしたり感想を聞くなど話題を膨らませながらグループで５分間（１人およそ１分）プレゼンテーションをすることができ」ので**評価は【５】**。

You should eat Macron and Éclair and cake.
That's all our presentation.
Thank you.

パフォーマンス課題で「アメリカ」をプレゼンテーションしたグループの生徒のマッピングシート





（４）．実践後の振り返り

ア　「主体的・対話的で深い学び」の実現について

（ア）　「主体的な学び」の実現に係る振り返り

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 15】に示します。

【表 15】「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「主体的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【興味・関心をもたせるための手立て】** 〇コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。 〇身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 **【見通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】** 〇ＣＡＮ−ＤＯリストを基に単元を通して目指す姿を明確に設定する。 〇ルーブリック等を用いながら教員が生徒と学習到達目標を共有する。 **【自らの学びを振り返らせ，次の学習につなげさせるための手立て】** 〇言語面や内容面での振り返りを行う場面を設定する。 〇学んだことを共有する場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	〇単元の目的，ゴールや授業の流れを示し，明確な見通しをもたせる。 〇実際のコミュニケーションに近づけた場面を設定する。 〇ポートフォリオのワークシートを活用し，学んだことをアウトプットする振り返りの場面を設定する。 ゴール像から逆算した単元構想
授業者の 振り返り （〇成果，●課題）	〇単元のねらい，ゴールを最初に生徒に提示し，目指す姿を共有できた。そうすることで，生徒が具体的な目標をもち，最後のパフォーマンス課題に向かって，単元を通して意欲的に取り組む姿勢が生まれた。**（単元のゴールの共有）** 〇ポートフォリオでのワークシートを使うことで生徒自身が本時だけでなく次時にやるべきことを理解して授業に臨んでいるように見えた。 **（振り返りシートの活用）** 〇グループで「おすすめの国」を紹介する前に，個人で 40 秒間「日本の魅力」を紹介する活動をした。初めて日本を訪れた外国人に日本の魅力を教えるという場面を設定した。やりとりする必然性のある場面を設定できた。また，「おすすめの国」を紹介するためのイメージをもたせることができた。繰り返し行ったので，生徒は 40 秒以上対話ができていた。 **（ゴール像から逆算した単元構想，実際のコミュニケーションに近づけた場面設定）** 〇振り返りシートに「学んだことや大切だと思うこと」を毎時間記入させた。生徒一人ひとりがどんな力を身につけたのかしっかりと把握できた。 **（振り返りの場面設定）** ●振り返りの時間に余裕がなく，記入はさせたものの生徒に発表させる機会を作ることができなかった。**（計画的な振り返りに必要な時間の設定）**

（イ）　「対話的な学び」の実現に係る振り返り

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 16】に示します。

【表 16】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「対話的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】** 〇やりとりする中で題材について理解させたり（例：Teacher Talk や Oral Introduction 等），意見や考えを交流させたりする場面を設定する。 〇それぞれの活動の目的に合わせて，ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する。 （例：相手を換え，対話させる機会を増やす等） **【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】** 〇お互いの存在や考えを尊重するなど，相手意識をもたせ安心して言語活動に取り組む親和関係を築かせる。 〇コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	〇ペアやグループ内で情報や考えを伝え合う場面を取り入れる。 〇教員や生徒，生徒同士によるやりとりする場面を増やす。 〇ペアやグループなど協働的に学ぶことでお互いの考えを尊重し，自分の考えを深めるなど相手意識を持って考える力を育成する。 ペアやグループでの学び合いにおける自分の考えを深める場面の設定
授業者の振り返り （〇成果，●課題）	〇クラスを２グループに分け，それぞれ列を作って向かい合った者同士で交互に 40 秒間「日本の魅力」について対話した。たくさんの人とのやりとりや友達の発表を観察し，自分に取り入れたり工夫することができていた。 **（ペアでの学び合いにおける自分の考えを深める場面の設定）** 〇Teacher Talk を聞いて教科書本文の内容を推測し，教員とやりとりをすることができた。 **（やりとりする場面の設定）** 〇教員の指示や説明を最小限にし，生徒は必要な時だけ教員に尋ねるとして，プレゼンの準備に 50 分間グループだけで取り組む時間を持てた。他のグループの資料を見たり，マッピングを見たり話す内容を聞いたりして，自分たちでより良いプレゼンをしようとする姿が見られた。**（グループで協働的に学ぶことでお互いの考えを尊重し自分の考えを深める場面の設定）** 〇普段からペアでの活動を基本としているが，自然と協働的に学べる姿勢が身についている。グループでの活動でも同様であり，互いに意見を出し合い，工夫していた。 **（ペアやグループで情報や考えを伝え合う場面の設定）** 〇前回の実践である「対話をつなぐ」という活動の成果から，場面や状況を理解して自然に対話ができるようになっている。自分の伝えたいことを伝えるだけでなく，相手に質問をしたり，ジェスチャーなどを用いて英語だけで伝えようとしていた。今後も継続させていきたい。**（他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動の設定）** ●それぞれ列を作って向かい合った者同士で一斉にやりとりする活動では，一部の生徒のやりとりを見れたが，全てのペアを見とることは難しかった。 **（見取る対象を重点化する観察の工夫）**

（ウ）　「深い学び」の実現に係る振り返り

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りを【表 17】に示します。

【表 17】「深い学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「深い学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【資質・能力の３つの柱が総合的に活用・発揮させるための手立て】** ○共有した学習到達目標を達成するために，新しく学ぶ内容だけではなく既習内容を関連付けさせて解決していく意識をもたせる。 ○「教える場面」と「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現させる場面」を効果的に関連付けさせる。 ○教科書の内容について読み取ったことや，自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて，発表させたり対話させたりするなど，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。 ○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指し，目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。
本単元における手立て （重点）	○資料から得た情報や自分の考え，気持ちなどについて対話したり発表したりして，アウトプットを目指した統合的な言語活動を行う。 ○日本や世界の国々への理解を深め，聞き手を意識しながら伝える気持ちを育成する。 聞き手を意識して伝える気持ちの育成，統合的な言語活動の設定
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○最後にグループで１つの国を選んでプレゼンをすることから，単元の中で世界の国々や日本の有名な場所の写真を使ってやりとりする活動を行った。そのため，グループで国を選ぶときにある程度世界の国について，イメージをもてていた。また，自分たちの選んだ国に興味をもって調べていた。最後のプレゼンテーション本番では，他のグループの発表を聞き，どの国に行ってみたいか考えさせたが，「自分の国」を選んだり，「全部の国に行ってみたい」と，世界の国々に感心をもった生徒が見られた。 **（日本や世界の国々への理解を深めた聞き手を意識して伝える気持ちの育成，統合的な言語活動の設定）** ○生徒は教員のマッピングやプレゼンの仕方をよく聞いており，自然とまねをして取り入れている。また，友達やグループの仲間のやり方も良く見ており，自分でアレンジを加えようとしている。以前は「これを英語で何といえばよいのか」という疑問が先にあり，なかなか英語にできずに苦労していたが，知っている英語でもジェスチャーなどで伝えられると学んでいる。**（教える場面と「見方・考え方」を働かせた思考・判断・表現する場面の効果的な関連付け）** ○文法の説明などを最小限にし，まず英語で相手に伝えるように活動を進めた。そして，ある程度活動してから文法の説明をした。また，こういう時にこういう表現が使えるよ」など助言することで，これらの文法の定着度が向上した。**（教える場面と「見方・考え方」を働かせた思考・判断・表現する場面の効果的な関連付け）** ○単元の始めと終わりに同じ条件で英作文を書かせた。単元の終わりでは，驚くほどに英作文を書けるようになり，「話すこと」から「書くこと」につなげられた。また，生徒に自信をつけさせることができた。 **（統合的な言語活動の設定）** ●プレゼンのリハーサルでは，時間が足りず，すべてのグループを正確に見とることができなかった。**（見取る対象を重点化する観察の工夫）**

事例３　高等学校１学年（平成 29 年７月実施）

（１）　単元構想シート

本研究では，以下に示す単元構想シートを活用して，単元を構想しました。

英語科　単元構想シート　***単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する**

単元名		
Lesson 4　Food Chain	対象学級	
	生 徒 数	
	担 当 者	

１　単元の目標（何ができるようになるか）

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
・食物連鎖や生態系と人間との関わりについて理解したことを，不定詞を用いた構文や比較表現を用いて発表することができる。	・教科書から食物連鎖やその保全や人間との関わりについて考え，人間が外部から持ち込んだ動植物が生態系を破壊した実際の例を説明するために，自ら調べたものについて適切に相手に伝えることができる。	・食物連鎖や生態系と人間との関わりについて積極的に知ろうとしている。 ・読んで理解したこと，それに対する自分の意見や感想，自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

２ 単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

〇英語で表現し伝え合うため，
〇人間が外部から持ち込んだ動植物が生態系に及ぼした影響を，
〇その影響を知らない聞き手に配慮しながら捉え，
〇伝えたい情報を整理し自分の考えや気持ちを付け加えていくこと。

３　単元における「学習課題」と「期待する姿」

【単元の学習課題】
地球上に存在する 2000 万種の生物の営みは，どのような関係のもとに成り立っているのか。

【期待する姿】
食物連鎖や生態系の果たす役割の大きさを理解し，人間の行為によって及ぼされる影響について，具体例を示しながら英語で相手に伝わるように表現することができる。

４　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・食物連鎖や生態系と人間との関わりについて理解したことを，不定詞を用いた構文や比較表現を用いて発表している。	・教科書から食物連鎖やその保全や人間との関わりについて考え，人間が外部から持ち込んだ動植物が生態系を破壊した実際の例を説明するために，自ら調べたものについて適切に相手に伝えている。	・食物連鎖や生態系と人間との関わりについて積極的に知ろうとしている。 ・読んで理解したこと，それに対する自分の意見や感想，自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・最終到達目標と評価規準をあらかじめ提示することで，それに繋がる各活動の意義を理解させる。 ・目的・場面・状況等を明確にし，実際のコミュニケーションに近づける必然性のある場面を設定する。	・教科書の題材や，読み取ったことをもとに，ペアやグループで情報や意見，考えを伝え合う場面を取り入れる。 ・聞き手や話し手に配慮しながら，あいづちや反応を取り入れるなど，やりとりに必要な双方向コミュニケーション力を育成する。	・単元で学習して得た知識や技能を活用し，自ら思考・判断しながら統合的な言語活動において表現活動を行う。 ・お互いが伝えたいことを「話したり」，「聞いたり」することで，理解し直したり表現し直したりしながら，整理・再構築する。 ・「話した」ことを「書く」活動に繋げて振り返ることで，情報や考えを整理する。

5　単元の指導と評価の計画（全７時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点(◎)，それ以外(○)
1	【最終到達目標の理解・把握】 【単元のゴール達成のための内容理解】	【知識・技能】 ・本文全体を読み，Q&Aやワードマップをつくりながら概要を理解している。 ［観察，マッピングシート］	■「地球上のたくさんの生物の営みが，どのような関係のもとに成り立っているかの概要を理解する」 ○導入により題材に興味を持たせた上で，本文全体を読み，Q&A やワードマップを活用して概要をつかむ。
2	【単元のゴール達成のための内容理解】	【思考・判断・表現】 ・Part 1を読み，Q&Aやワードマップをつくりながら詳細を理解し，伝えたい情報を整理し相手に伝えている。 ［観察・マッピングシート・サマリーシート］	■「日本でシカが増えているのはなぜか」 ○本文を読んで内容に関する質問に答えた上で，ワードマップを活用して要点を整理する。
3	【単元のゴール達成に向けての練習】	【知識・技能】 【思考・判断・表現】 ・語彙や文法／構文の意味と使い方を理解した上で，オリジナル文をつくっている。 ・英語らしい音声の特徴を意識して音読している。 ［観察，ワークシート］	■「①語彙や文法／構文の意味と使い方を理解し，オリジナル文をつくることができる。②英語の音声の特徴を意識しながら音読できる。」 ○語彙の発音や意味を理解し，ペアでの練習を経て簡単な文をつくる。 ○英語の音声の特徴を意識しながら音読する。 ◎文法／構文が使われる場面や状況を理解した上でオリジナル文を作る。
4	【単元のゴール達成のための内容理解】	【思考・判断・表現】 ・Part 2,3を読み，Q&Aやワードマップをつくりながら詳細を理解し，伝えたい情報を整理し相手に伝えている。 ［観察，マッピングシート・サマリーシート］	■「食物連鎖とは何かを理解し，それを保つために何か必要か」 ○本文を読んで内容に関する質問に答えた上で，ワードマップを活用して要点を整理する。

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎、○） ※学習活動を複数記述した場合，重点（◎），それ以外（○）
5	【単元のゴール達成に向けての練習】	【知識・理解】 【思考・判断・表現】 ・語彙や文法／構文の意味と使い方を理解した上で，オリジナル文をつくっている。 ・英語らしい音声の特徴を意識して音読している。 ［観察，ワークシート］	■「①語彙や文法／構文の意味と使い方を理解し，オリジナル文をつくることができる。②英語の音声の特徴を意識しながら音読できる。」 ○語彙の発音や意味を理解し，ペアでの練習を経て簡単な文をつくる。 ○英語の音声の特徴を意識しながら音読する。 ◎文法／構文が使われる場面や状況を理解した上でオリジナル文を作る。
6	【単元のゴール達成に向けての練習】	【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に情報収集しながら，話すべき内容を整理・再構築しようとしている。 ［観察］	■「人間が外部から持ち込んだ動植物が実際に生態系を破壊した例をグループで調べ，英語でミニ・プレゼンテーションをする準備をする。 ◎生態系を破壊した例をグループごとに調べ，英語で発表する準備をする。
7	【単元のゴールとなるアウトプット活動】	【思考・判断・表現】 ・伝えるべき内容を精選し，具体例や理由，写真資料等を使用しながら英語で表現している。 ［観察，プレゼン資料，ワークシート］	■「人間が外部から持ち込んだ動植物が実際に生態系を破壊した例について調べたことをプレゼンテーションする」 ◎教室内でローテーションをしながら，同事進行的にミニ・プレゼンテーションを行う。

（２） ワークシート

Lesson4 Food chain part1

1 Questions

1 What is increasing in many parts of Japan?

deer. The number of deer is.

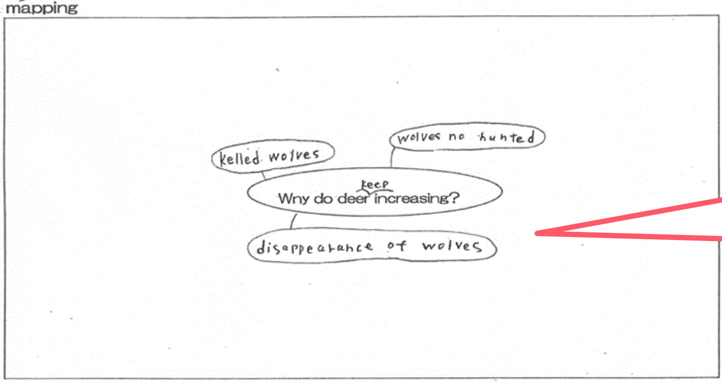
2 Please tell me one reason why deer keep increasing.

(one reason) Because, may be the disappearance of wolves.

3 When was the last Japanese wolf killed?

The last wolf was killed at the beginning of the 20th century.

2 mapping



3 Write down summary of this part 1 in English

The number of deer is increasing in many parts of Japan. Why do deer keep increasing? One reason may be the disappearance of wolves. The last wolf was killed at the beginning of the 20th century. With no natural enemies, it was easy for deer to increase rapidly.

4 日本語で part1 の要約（2 行まで）

今、日本でシカが増えているのは、人間が食物れんさのトップにたつオオカミを殺してしまい、シカを食べる生き物がいなくなってしまったことから始まる。

1st grade number ＿＿＿＿ name ＿＿＿＿＿＿＿＿

Q&A を用いての概要把握

できるだけ英語を書かかせ，答えとなる部分を繋げると簡単な要約文になるような Q を準備する。

マッピングを活用

マッピングを活用して，自分なりにキーワードを繋ぎながら内容理解を深める。

話したことを書く

リテリングを数回行った後に，「話したこと」を「書く」活動につなげ，正確さを担保する。

日本語での２行要約

授業を通して最低限理解したことを確認する。

キーワードの導入

読ませる前に最低限必要なキーワードをオーラル・イントロダクションを通して類推させる。

Lesson4 Food chain part2・3

Today's Goal: food chain とは何か、それを保つには何が必要か英語で概要をつかみ相手に説明することができる。

1 Let's guess the key words together!

part2 1) nutrition 栄養

2) fall pray to A 食べられる

3) decompose 分解

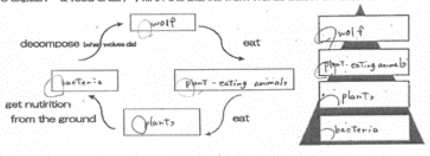
4) species 種

part3 5) maintain

2 Questions

<part2>

1) To explain "a food chain", fill in the blanks from words below on each chart.



Words: plant-eating animals, wolf, plants, bacteria

2) What species were the strongest in the food chain?

Wolves were the strongest in their food chain

3) To keep a food chain stable, what must a food chain do?

It must keep layers of species.

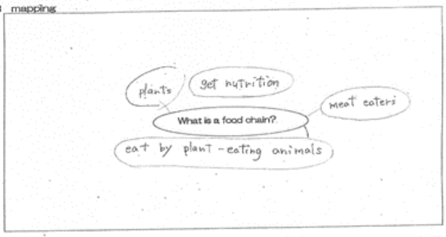
4) To support one human for a year, you need three hundred trout.

The trout need nineteen hundred 90,000 frogs.

The frogs must eat 27 million grasshoppers.

The grasshoppers need 1,000 tons of grass.

3 mapping



4 Write down the summary of the part 2 and 3 in English

What is a food chain? Plants-eating animals that eat plants are eaten by meat eaters. meat eaters die and decompose into bacteria, after that they become nutritions for plants. This biological circle is called a food chain. A great number of species are living in the world. If a species disappears, this can cause serious problems.

◎ ok

5 日本語で part2 と 3 の要約（2 行まで）

食物連鎖は、食べる・食べられるという関係になり、ピラミッド的で表され、強い種ほど上に置かれている。世界では数多くの種が生息し、種が消えたら深刻な問題を引き起こしてします。

◎よし。

1st grade class＿＿number ＿＿＿＿ name ＿＿＿＿＿＿＿＿

（３）パフォーマンス課題におけるルーブリック

パフォーマンス評価（案）					学校名	
単元名 Lesson 4 Food Chain					対象学級	
					生徒数	
					担当者	

1 パフォーマンス課題

人間が外部から持ち込んだ動植物が生態系を破壊し問題になった実際の例を調べまとめたものを、英語で表現する。

2 ルーブリック

5	4	3	2	1	得点
A		B	C		
内容を精選しており情報量が適切である。説得力のある具体例や理由を複数述べている。写真資料等を準備しており効果的に使用している。聞き手に質問をしたりしながら話題を膨らませている。	内容を精選しており情報量が適切である。説得力のある具体例や理由を複数述べている。写真資料等を準備しており効果的に使用している。	情報量が適切で，内容を適度にまとめている。具体例や理由を述べている。写真資料等を準備し提示している。	必要な情報を最低限盛り込んでいるが，具体例や理由の説明にやや一貫性がない。写真資料等を準備しているがあまり効果的に使用していない。	情報量がやや不足しており，相手を説得するための根拠をほとんど示していない。資料等を準備しているが効果的に使用していない。	

（４）．実践後の振り返り

ア　「主体的・対話的で深い学び」の実現について

（ア）　「主体的な学び」の実現に係る振り返り

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 18】に示します。

【表 18】「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「主体的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【興味・関心をもたせるための手立て】** ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。 ○身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 **【見通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】** ○ＣＡＮ-ＤＯリストを基に単元を通して目指す姿を明確に設定する。 ○ルーブリック等を用いながら教員が生徒と学習到達目標を共有する。 **【自らの学びを振り返らせ，次の学習につなげさせるための手立て】** ○言語面や内容面での振り返りを行う場面を設定する。 ○学んだことを共有する場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	○課題を明確に示す。 ○最終到達目標と評価規準を提示する。 ○導入時において教材と自身を関連づけ，これから学習することの意義を理解させる。 ○実際のコミュニケーションに近づけた，やりとりする必然性のある場面を設定する。
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○授業のゴールをこれまでよりも全体を通したゴールにするようになった。**（課題の明確化）** ○表現するための言語活動であるという意識を持てるようになった。**（やりとりする必然性のある場面の設定）** ○単元の最初の時間に，全文を通して読むことによって，個人差はあるが全体像をつかんだ上で内容に入っていくことができた。**（これから学習することの意義理解）** ○単元のパフォーマンス課題を提示することで，生徒も見通しを持つことができた。 ●単元の最初の授業での導入に気を取られ，単元の最後に行うパフォーマンス課題の提示を忘れそうになった。**（最終到達目標の提示）** ●まだ生徒が本課の内容がわからない段階の単元の始めの段階では，単元の最後のパフォーマンス課題をはっきり話しにくい。**（評価規準の提示）** ●分かりやすく，かつ短い言葉で生徒に英語でオーラル・イントロダクションを行うことにもっと慣れていきたい。**（導入時における教材と自身との関連付け）**

（イ）　「対話的な学び」の実現に係る振り返り

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 19】に示します。

【表 19】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「対話的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p.12）	**【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】** ○やりとりする中で題材について理解させたり（例：Teacher Talk や Oral Introduction 等），意見や考えを交流させたりする場面を設定する。 ○それぞれの活動の目的に合わせて，ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する（例：相手を代えて，対話させる機会を増やす等） **【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】** ○お互いの存在や考えを尊重するなど，相手意識をもたせ安心して言語活動に取り組む親和関係を築かせる。 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定する。
本単元における手立て（重点）	○ペアやグループで情報や意見を伝え合う場面を取り入れる。 ○教員と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。 ○聞き手に配慮しながら，あいづちや反応を取り入れるなど，やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション力を育成する。 ペアで対話をする場面の設定 発問されたことに対する自分の考えをペアで確認する場面の設定
授業者の振り返り（○成果，●課題）	○ペアやグループによる対話を意識して増やしたことで，困っても相談して良いんだという意識が芽生えてきた。**（情報や意見を伝え合う場面の設定）** ○伝える対象を「小学４年生にわかるように」などと具体的に示すことで，生徒の話し方が変化する様子が観察できた。**（聞き手に配慮したやりとりに必要な双方向によるコミュニケーション能力の育成）** ○自信がなく全体の場で発言するのをはばかる生徒が多いが，隣同士で話す時間を少し与えると自分の意見を話す始め，話し易い雰囲気が生まれた。**（生徒同士でやりとりをする場面の設定）** ○本文を初見で読む前に，読むべきポイントとなるＱ＆ＡのＱの内容をペアで確認させることで，何を読み取るべきかがより明確となり，自信を持って英文に向かう生徒が増えた。**（生徒同士でやりとりをする場面の設定）** ○教員による内容確認をする前に，生徒同士でＱ＆Ａを口頭で実際に行うことで，英語でのインターラクションの場面が増え，授業にメリハリがついた。**（双方向によるコミュニケーション能力の育成）** ●ペアによりコミュニケーションの出来・不出来が大変大きかった。

（ウ）　「深い学び」の実現に係る振り返り

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 20】に示します。

【表 20】「深い学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「深い学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【資質・能力の３つの柱が総合的に活用・発揮させるための手立て】** ○共有した学習到達目標を達成するために，新しく学ぶ内容だけではなく既習内容を関連付けさせて解決していく意識をもたせる。 ○「教える場面」と「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現させる場面」を効果的に関連付けさせる。 ○教科書の内容について読み取ったことや，自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて，発表させたり対話させたりするなど，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。 ○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指し，目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。
本単元における手立て （重点）	○マッピングを基に，教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを表現し直したり，相手の言うことを理解し直したりしながら整理し，まとめる。 ○身に付けた知識・技能を活用し，読んだり，聞いたりした内容について，アウトプットする統合的な言語活動を行う。 ○「話した」ことを「書く」活動に繋げて振り返ることで，情報や考えを整理し，正確さも高める。 相手を換えながら何度もリテリングをし，相手の意見も参考にすることで，自分の考えを深める場面の設定
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○Key となる words and phrases を用いて表現することに少しずつ慣れてきた。 **（マッピングを用いての内容の整理）** ○アウトプットすることの楽しさを感じた生徒が見られるようになった。 **（知識・技能を活用した統合的なアウトプット活動）** ○マッピングをさせることで，Q＆Aでの内容理解の加え，自分なりにキーワードを繋げることで内容理解の助けになっていた印象がある。 **（マッピングを用いての内容の再構築）** ○１回だけのリテリングではなく，相手をかえながら何度も行うことで，言えなかったことが徐々に言えるようになり，理解が深まり笑顔も増えた。 **（知識・技能を活用した統合的なアウトプット活動）** ○たくさん話した後に，今話したことを書かせる活動の指示をすることで，書くことに対するハードルが下がり，抵抗なく英文を書いてくる生徒が増えた。 **（「話した」ことを「書く」ことでの情報や考えの整理）** ○話していた段階では正確さに問題があったが，その内容を書いた文においては，正確さが増していた。　**（「話した」ことを「書く」ことでの正確さの担保）** ●マップができていない状態でリテリング活動に入ってしまうと，何をどう話してよいかまとまらず戸惑ってしまった生徒がいた。　**（マッピング指導の充実）** ●アウトプットするために教員側ですべきこと・すべきでないことを精査する力がまだ不足していた。　**（統合的な言語活動の計画的な設定）**

事例４　高等学校１学年（平成 29 年 10 月実施）

（１）単元構想シート

英語科　単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する		
単元名 Lesson 7　Pride of Japan	対象学級	
	生 徒 数	
	担 当 者	

１　単元の目標（何ができるようになるか）

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
町工場の技術力の高さ，抱える問題とその打開策を理解し，完了形の構文等を用いて発表することができる。	町工場が高い技術力と熱意を武器に奮闘している姿や優れた製品の例を説明するために，自ら調べたものについて適切に相手に伝えることができる。	・町工場が製作した優れた製品の例について積極的に知ろうとしている。 ・読んで理解したこと，それに対する自分の意見や感想，自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

２ 単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び

〇英語で表現し伝え合うため，
〇町工場の優れた製品とその熱意を，
〇その情報を知らない聞き手に配慮しながら捉え，
〇伝えたい情報を整理し自分の考えや気持ちを付け加えていくこと。

３　単元における「学習課題」と「期待する姿」

【単元の学習課題】
世界でもトップクラスの技術力を誇る日本の町工場は，どんな技術を持っているのか。

【期待する姿】
小さな会社の，全国や世界で認められている優れた製品を見つけて，自らの意見や理由を示して適切に表現することができる。

４　単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
町工場の技術力の高さ，抱える問題とその打開策を理解し，完了形の構文等を用いて発表している。	町工場が高い技術力と熱意を武器に奮闘している姿や優れた製品の例を説明するために，自ら調べたものについて適切に相手に伝えている。	・町工場が製作した優れた製品の例について積極的に知ろうとしている。 ・読んで理解したこと，それに対する自分の意見や感想，自ら調べた内容等を積極的に相手に伝えようとしている。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
・最終到達目標と評価規準をあらかじめ提示することで，それに繋がる各活動の意義を理解させる。 ・目的・場面・状況等を明確にし，実際のコミュニケーションに近づける必然性のある場面を設定する。	・教科書の題材や，読み取ったことをもとに，ペアやグループで情報や意見，考えを伝え合う場面を取り入れる。 ・聞き手や話し手に配慮しながら，あいづちや反応を取り入れるなど，やりとりに必要な双方向コミュニケーション力を育成する。	・単元で学習して得た知識や技能を活用し，自ら思考・判断しながら統合的な言語活動において表現活動を行う。 ・お互いが伝えたいことを「話したり」，「聞いたり」することで，理解し直したり表現し直したりしながら，整理・再構築する。 ・「話した」ことを「書く」活動に繋げて振り返ることで，情報や考えを整理する。

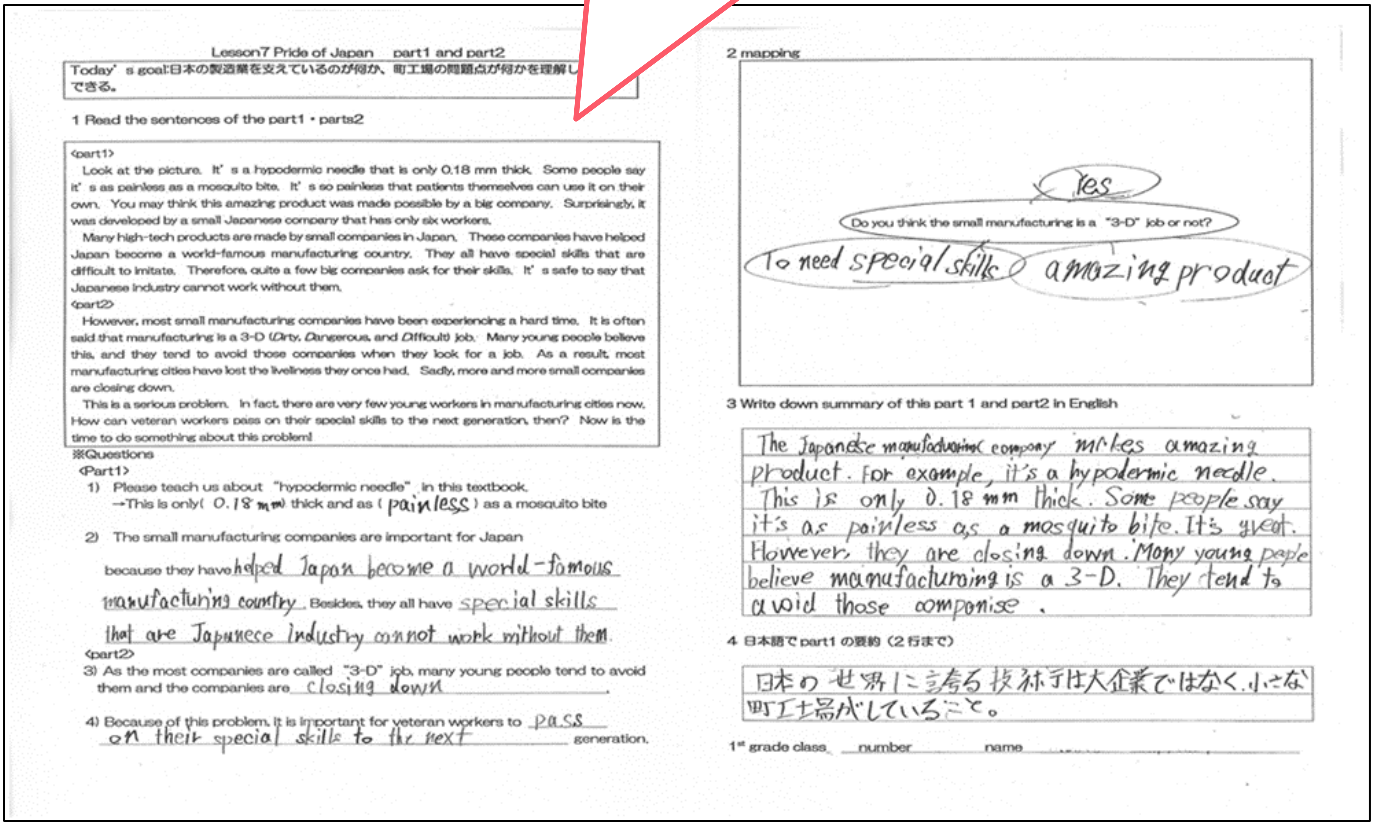
5　単元の指導と評価の計画（全７時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点(◎)，それ以外(○)
1	【最終到達目標の理解・把握】 【単元のゴール達成のための内容理解】	【知識・技能】 本文全体を読み，Q&A やワードマップをつくりながら概要を理解している。 ［観察，マッピングシート］	■「小さな町工場が great である理由を相手に簡潔に英語で説明できる」 ◎導入により題材に興味を持たせた上で，本文全体を読み，Q&A やワードマップを活用して概要をつかむ。
2	【単元のゴール達成のための内容理解】	【思考・判断・表現】 Part 1 を読み，Q&A やワードマップをつくりながら詳細を理解し，伝えたい情報を整理し相手に伝えている。 ［観察・マッピングシート・サマリーシート］	■「何が日本の製造業を支えているのが何か，町工場の問題点が何かを理解し説明できる」 ◎本文を読んで内容に関する質問に答えた上で，ワードマップを活用して要点を整理する。
3	【単元のゴール達成に向けての練習】	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・語彙や文法／構文の意味と使い方を理解した上で，オリジナル文をつくっている。 ・英語らしい音声の特徴を意識して音読している。 ［観察，ワークシート］	■「本文を音読し，理解した上で現在完了・現在完了進行形の英文を用いてオリジナル文を作成し，表現することができる」 ○語彙の発音や意味を理解し，ペアでの練習を経て簡単な文をつくる。 ○英語の音声の特徴を意識しながら音読する。 ◎文法／構文が使われる場面や状況を理解した上でオリジナル文を作る。
4	【単元のゴール達成のための内容理解】	【思考・判断・表現】 Part 2,3 を読み，Q&A やワードマップをつくりながら詳細を理解し，伝えたい情報を整理し相手に伝えている。 ［観察，マッピングシート・サマリーシート］	■「『大田区が抱える問題』と『小杉聡史さんが思いついた打開策』を読み取り，『町工場の底力』を相手に“熱く”伝えることができる」 ◎本文を読んで内容に関する質問に答えた上で，ワードマップを活用して要点を整理する。

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点（◎），それ以外（〇）
5	【単元のゴール達成に向けての練習】	【知識・理解】 【思考・判断・表現】 ・語彙や文法／構文の意味と使い方を理解した上で，オリジナル文をつくっている。 ・英語らしい音声の特徴を意識して音読している。 ［観察，ワークシート］	■「本文を音読し，理解した上で過去完了形の英文を用いて自分の失敗談を伝えることができる」 〇語彙の発音や意味を理解し，ペアでの練習を経て簡単な文をつくる。 〇英語の音声の特徴を意識しながら音読する。 ◎文法／構文が使われる場面や状況を理解した上でオリジナル文を作る。
6	【単元のゴール達成に向けての練習】	【主体的に学習に取り組む態度】 積極的に情報収集しながら，話すべき内容を整理・再構築しようとしている。 ［観察］	■「小さな会社でも全国や世界で認められている優れた製品を見つけて，英語でミニ・プレゼンテーションをする準備をする。」 ◎生態系を破壊した例をグループごとに調べ，英語で発表する準備をする。
7	【単元のゴールとなるアウトプット活動】	【思考・判断・表現】 伝えるべき内容を精選し，具体例や理由，写真資料等を使用しながら英語で表現している。 ［観察，プレゼン資料，ワークシート］	■「小さな会社でも全国や世界で認められている製品を見つけ，理由を示しながら意見を適切にペアで表現することができる」 ◎教室内でローテーションをしながら，同事進行的にミニ・プレゼンテーションを行う。

（２）　ワークシート

読みながら書き込みができるように，後半の実践では教科書の本文をワークシートに載せたものに変更した。



Lesson7 Pride of Japan　part1 and part2

Today' s goal:日本の製造業を支えているのが何か、町工場の問題点が何かを理解し
できる。

1 Read the sentences of the part1・parts2

<part1>

Look at the picture. It' s a hypodermic needle that is only 0.18 mm thick. Some people say it' s as painless as a mosquito bite. It' s so painless that patients themselves can use it on their own. You may think this amazing product was made possible by a big company. Surprisingly, it was developed by a small Japanese company that has only six workers.

Many high-tech products are made by small companies in Japan. These companies have helped Japan become a world-famous manufacturing country. They all have special skills that are difficult to imitate. Therefore, quite a few big companies ask for their skills. It' s safe to say that Japanese industry cannot work without them.

<part2>

However, most small manufacturing companies have been experiencing a hard time. It is often said that manufacturing is a 3-D (*D*irty, *D*angerous, and *D*ifficult) job. Many young people believe this, and they tend to avoid those companies when they look for a job. As a result, most manufacturing cities have lost the liveliness they once had. Sadly, more and more small companies are closing down.

This is a serious problem. In fact, there are very few young workers in manufacturing cities now. How can veteran workers pass on their special skills to the next generation, then? Now is the time to do something about this problem!

※Questions

<Part1>

1) Please teach us about "hypodermic needle" in this textbook.
→This is only(0.18 mm) thick and as (painless) as a mosquito bite

2) The small manufacturing companies are important for Japan
because they have helped Japan become a world-famous manufacturing country. Besides, they all have special skills that are Japanece Industry cannot work without them.

<part2>

3) As the most companies are called "3-D" job, many young people tend to avoid them and the companies are closing down.

4) Because of this problem, it is important for veteran workers to pass on their special skills to the next generation.

2 mapping

3 Write down summary of this part 1 and part2 in English

The Japanese manufacturing company makes amazing product. For example, it's a hypodermic needle. This is only 0.18 mm thick. Some people say it's as painless as a mosquito bite. It's great. However, they are closing down. Many young peple believe manufacturing is a 3-D. They tend to avoid those componise.

4 日本語でpart1の要約（２行まで）

日本の世界に誇る技術は大企業ではなく、小さな町工場がしていること。

1st grade class　number　name

Lesson7　Pride of Japan

Total goal: 小さな会社でも全国や世界で認められている製品を見つけて、理由を示しながら意見を適切にペアで表現することができる。

プレゼンテーション用のワークシート

●October 16th ,2017

<procedure>

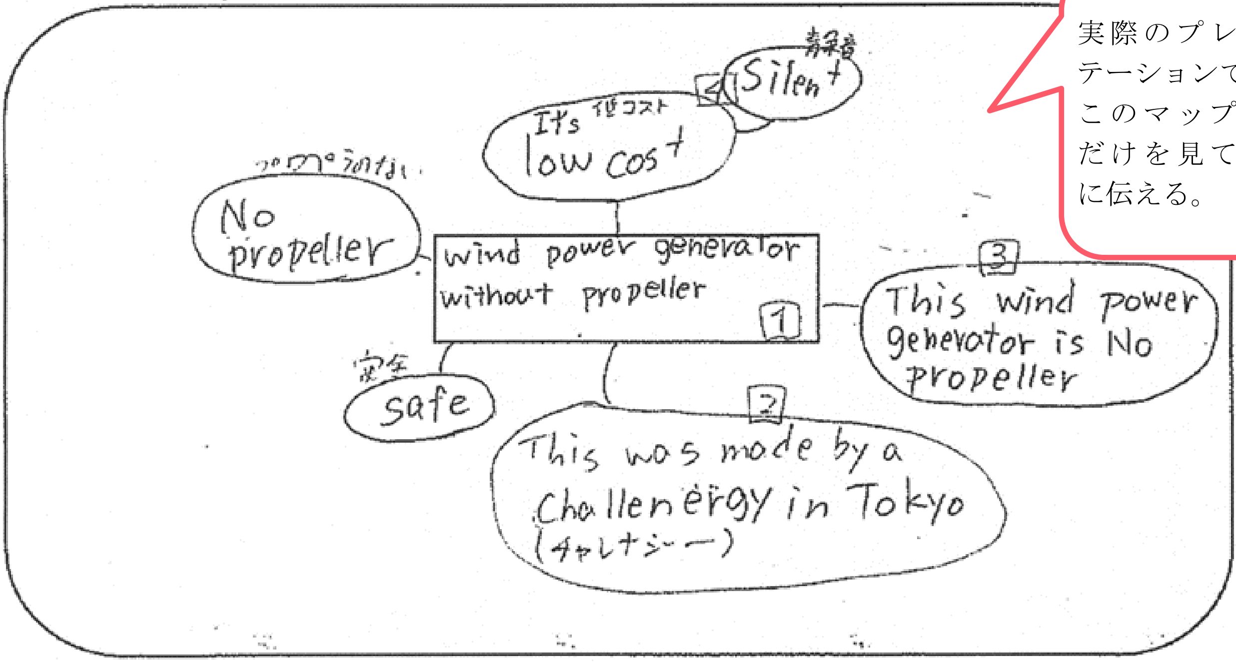
1）ペアで上記の例をインターネットで探し、小さな会社でも全国や世界で認められている製品(商品)を見つけ、一つその例を記入する。

製品(商品名)
プロペラのない風力発電機

2）インターネットでその製品(商品)について調べてみる。

項目	内容（日本語でOK。簡潔に）
作っている会社名	株式会社チャレナジー
その製品(商品)の特徴	・プロペラがない ・台風の時でも安全に発電できる ・低コスト　・静音
その製品(商品)の感想	台風でも安全に発電することができる風力発電機はすごいと思った。

3）English mapping　2）の情報を元に中央に英語で商品名を記入。発表できるようにkey wordsを記入。



実際のプレゼンテーションでは，このマップ部分だけを見て相手に伝える。

4）mapping を元に４文以上の英文を作成してみる。出だしは次のようにしよう。

Today, we will introduce wind power generator without propeller
This was made by a challenergy in Tokyo. This
is wind power generator is No Propeller. It's low
cost and silent. Electricity can be generated
even in strong winds like typhoons. The problem of
noise and land in wind power generators is regarded
as a problem in Japan. But this product does not have a
big influence on the Japanese environment.

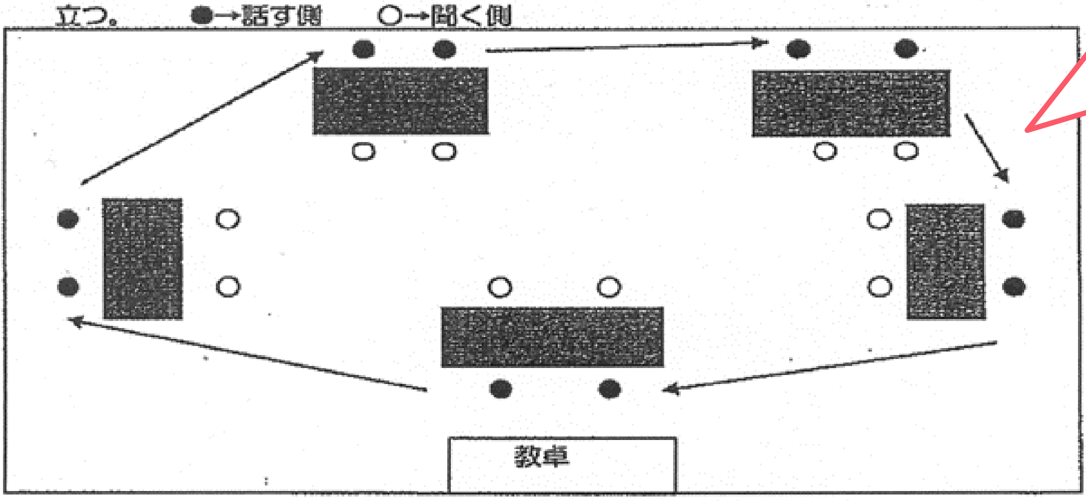
実際に話した後に，書くことを徹底する。基本的にこの部分は宿題となる。

5）本番はマッピングを用いてペアで発表。必ず一人２文を発表できるように準備。

● October 17th ,2017 presentation:

1）本日の説明

2）準備　机を次のように設置。机の外側に話す側のペアが、内側に聞く側のペアが立つ。　●→話す側　○→聞く側



ローテーションしながら，プレゼンテーションを５回，聞く側を５回行う。

3）英語で挨拶のあとスタート。外の話す側が回る。思いが伝わるように話し、理解できるように聞こう。

4）これを５回時計回りに続ける。

5）終了したら交代し、５回続ける。

6）聞く側は話し手のペアの簡単な評価をする。

7）教員側は回っているのを聞きながら評価をする。評価は別紙の通り。

Your name: 1 ___number___ · ___name___ ____________

Your partner's name ___ ____________________

（３）パフォーマンス課題におけるルーブリック

パフォーマンス評価（案）	学校名	
単元名 Lesson 7 Pride of Japan	対象学級	
	生徒数	
	担当者	

1　パフォーマンス課題

小さな会社でも全国や世界で認められている製品を見つけて、自らの意見を理由を示して適切に表現することができる。

2　ルーブリック

5	4	3	2	1	得点
A		B	C		
内容を精選しており情報量が適切である。説得力のある具体例や理由を複数述べている。データ資料等を準備し効果的に使用している。聞き手に質問をしたりしながら話題を膨らませている。	内容を精選しており情報量が適切である。説得力のある具体例や理由を複数述べている。データ資料等を準備し効果的に使用している。	情報量が適切で，内容を適度にまとめている。具体例や理由を述べている。データ資料等を準備し提示している。	必要な情報を最低限盛り込んでいるが，具体例や理由の説明にやや一貫性がない。データ資料等は準備しているがあまり効果的に使用していない。	情報量がやや不足しており，相手を説得するための根拠をほとんど示していない。資料等は準備しているが効果的に使用していない。	

（４） 実践後の振り返り

ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現について

（ア） 「主体的な学び」の実現に係る振り返り

「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 21】に示します。

【表 21】「主体的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「主体的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【興味・関心をもたせるための手立て】** ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。 ○身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 **【見通しを持って粘り強く取り組ませるための手立て】** ○ＣＡＮ-ＤＯリストを基に単元を通して目指す姿を明確に設定する。 ○ルーブリック等を用いながら教員が生徒と学習到達目標を共有する。 **【自らの学びを振り返らせ，次の学習につなげさせるための手立て】** ○言語面や内容面での振り返りを行う場面を設定する。 ○学んだことを共有する場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	○課題を明確に示す。 ○最終到達目標と評価規準を提示する。 ○導入時において教材と自身を関連づけ，これから学習することの意義を理解させる。 ○実際のコミュニケーションに近づけた，やりとりする必然性のある場面を設定する。 プレゼンテーション本番に向け，主体的に準備する場面の設定
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○前回よりもゴールを各レッスンに絡めて意識できるようになった。**（課題の明確化）** ○生徒がアウトプットする必然性を考え，自ら調べてくるようになった。**（やりとりする必然性のある場面の設定）** ○表現させるゴールを設定することの大切さと面白さを知ることができた。**（実際のコミュニケーションに近づけた場面の設定）** ○単元の最終ゴールとしてのプレゼンテーションがイメージできているので，授業における内容理解や音読練習に以前よりも意欲的に取り組むようになった。**（最終到達目標の提示）** ○ルーブリックをあらかじめ提示しておくことで，目指すべきレベルが明確になり，プレゼンテーションの練習をより積極的に行っていた。**（評価規準の提示）** ○３Ｄ(dirty, dangerous, difficult)といった下町の町工場のイメージを払拭すべく，町工場の優れた技術を調べ，そのすばらしさを相手に「熱く」伝えるという場面を設定することで，実際のコミュニケーションに近づけることができた。**（実際のコミュニケーションに近づけた場面の設定）** ●主体的な発表に向けて更に実際の場面に近づける工夫が必要だった。 ●振り返りを授業内でする時間がなかなか持てず，全体で共有する機会が少なかった。**（振り返りに必要な時間の計画的な設定）**

（イ）　「対話的な学び」の実現に係る振り返り

「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 22】に示します。

【表 22】「対話的な学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「対話的な学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【情報や考えなどを伝え合わせる言語活動の改善・充実のための手立て】** ○やりとりする中で題材について理解させたり（例：Teacher Talk や Oral Introduction 等），意見や考えを交流させたりする場面を設定する。 ○それぞれの活動の目的に合わせて，ペア活動やグループ活動など学習形態を工夫する。 （例：相手を代え，対話させる機会を増やす等） **【他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面の充実のための手立て】** ○お互いの存在や考えを尊重するなど，相手意識をもたせ安心して言語活動に取り組む親和関係を築かせる。 ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて，他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を設定する。
本単元における手立て （重点）	○ペアやグループで情報や意見を伝え合う場面を取り入れる。 ○教員と生徒または生徒同士によるやりとりを増やす。 ○聞き手に配慮しながら，あいづちや反応を取り入れるなど，やりとりに必要な双方向によるコミュニケーション力を育成する。 小グループで，よりリラックスした雰囲気で何度も練習できる活動の設定
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○相手を意識した言語活動を意識できる生徒が増えてきた。 **（双方向コミュニケーション能力の育成）** ○最後のプレゼンテーションで７月よりも工夫して発表しなければいけないと感じる生徒が増えてきた。 ○「うなづき」，「相づち」，「繰り返し」等を入れることで相手が話し易くなることを伝え実践させることで「聞く側」を養うことができた。**（双方向コミュニケーション能力の育成）** ○プレゼンテーションの前の準備段階において，活発にペアと打ち合わせをしていた。 **（生徒同士でやりとりをする場面の設定）** ○プレゼンテーションの場面では，初めて聞く説明や写真等について，驚きや疑問があり，「これ何？」「もっと教えて！」といった欲求が顕著に見られた。 **（情報や意見を伝え合う場面の設定）** ○プレゼンテーションにおいて，質問タイムをもうけることで，双方向によるコミュニケーションの場を設定することができた。**（双方向コミュニケーション能力の育成）** ○５回行うプレゼンテーションのうち，１～２回目までは堅い印象があるが，回を重ねるごとにより打ち解け，自信を持ってプレゼンテーションを行っていた。 **（相手を換え，複数回対話させる機会の設定）** ○クラス全体の前で１回勝負のプレゼンではなく，小規模なプレゼンで回数を重ねる方がメンタルバリアが低く，発表する側にとっても，聞く側にとってもコミュニケーションが成立している実感が持てる。**（相手を換え，複数回対話させる機会の設定）** ●「聞く側」の質問力がまだまだ低く，聞いたことに対して質問する力を養う必要性を感じた。 ●もっと相手と対話が出来る状況をつくる必要性を感じた。

（ウ）　「深い学び」の実現に係る振り返り

「深い学び」の実現に向けての手立てと授業実践後の授業者の振り返りの記述を【表 23】に示します。

【表 23】「深い学び」の実現に向けての手立てと授業者の振り返り

「深い学び」の実現に向けて	
手立て （本ガイドブック p. 12）	**【資質・能力の３つの柱が総合的に活用・発揮させるための手立て】** ○共有した学習到達目標を達成するために，新しく学ぶ内容だけではなく既習内容を関連付けさせて解決していく意識をもたせる。 ○「教える場面」と「見方・考え方」を働かせて「思考・判断・表現させる場面」を効果的に関連付けさせる。 ○教科書の内容について読み取ったことや，自分の気持ちや考えなど相手に伝えたいことについて，発表させたり対話させたりするなど，アウトプットを目指した統合的な言語活動を設定する。 ○身に付けた知識・技能の「定着・発展」を目指し，目的・場面・状況を明確にした，実際のコミュニケーション場面に近づけた言語活動を設定する。
本単元における手立て （重点）	○マッピングを基に，教科書の内容や対話の内容について自分が伝えたいことを表現し直したり，相手の言うことを理解し直したりしながら整理し，まとめる。 ○身に付けた知識・技能を活用し，読んだり，聞いたりした内容について，アウトプットする統合的な言語活動を行う。 ○「話した」ことを「書く」活動に繋げて振り返ることで，情報や考えを整理し，正確さも高める。 実際に相手の反応を見ながら，プレゼンテーションの情報を整理する場面の設定
授業者の振り返り （○成果，●課題）	○マッピングに慣れてきて，見なくても問いかけに答えられる生徒が増えてきた。 ○リテリングを行うなかで，上手く言えることもあるが，上手く言えないこともあり伝えきれない悔しさを感じ何とか伝えたいという気持ちになっていた。 **（既習内容を関連付けさせて解決していく意識づけ）** ○リテリングを行う際，自分が上手く言えないことを相手の上手な表現から学び取り，自分の表現に組み入れて表現することで，表現の幅を広げることができた。 **（クラスメートの発表から得た情報について，整理しまとめ伝える場の設定）** ○始めは上手く言えなかったが，相手を代えながら繰り返すなかで，上手く言えるようになった実感を持つことができた。 **（理解し直させたり表現し直させたりしながら思いや考えを深めさせる場の設定）** ○教科書で学習した内容をベースに，プレゼンテーションでは自分で調べた事を教科書の表現を参考にしながら伝える場面があることで，教科書で扱われた表現を整理・再構築し，より深く理解できた。**（「教える場面」と「見方・考え方」を働かせた「思考・判断・表現する場面」の効果的な関連付け）** ●写真の提示に今回はスマートフォンを活用したが，情報処理室等を利用して大きくプリントした写真等を利用させたい。**（資料の提示方法の工夫）** ●どの程度までの情報をマッピングに示すべきなのかをもっと意識させたい。

【単元構想シート様式例】

外国語科単元構想シート　＊単元や題材など内容や時間のまとまりで作成する			
単元名		対象学級	年　　組
		生　徒　数	名　（男　　名，女　　名）
		担　当　者	
1　単元の目標（何ができるようになるか）			
知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等	
2　単元における「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせる学び			
○ ○ ○ ○			
3　単元における「学習課題」と「期待する姿（ゴール像）」			
【単元の学習課題】			
【期待する姿】			
4　単元の評価基準			
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて（外国語科における授業改善の視点）		
主体的な学び	対話的な学び	深い学び

5　単元の指導と評価の計画（全　　時間）

時間	学習過程	【評価の観点】 評価規準 ［評価方法］	学習課題（■）と主な学習活動（◎） ※学習活動を複数記述した場合，重点（◎），それ以外（○）
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎
	【　　　　】	【　　　　】 ［　　　　］	■ ◎

おわりに

「答申」(2016) には,「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善に関して，次のような懸念が述べられています。

○ 教育の質の改善のための取組が，狭い意味での授業の方法や技術の改善に終始するのではないか
○ 工夫や改善が，ともすると本来の目的を見失い，特定の学習や指導の「型」に拘泥する事態を招きかねないのではないか

また，次のようなことも述べられています。

新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力を育むためには，教師自身が習得・活用・探究という学びの過程全体を見渡し，個々の内容事項を指導することによって育まれる資質・能力を自覚的に認識しながら，子供たちの変化等を踏まえつつ自らの指導方法を不断に見直し，改善していくことが求められる。

新学習指導要領では,「三つの柱」を総合的に育むことを目指しています。本ガイドブックでは「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業づくりの考え方について，指導法を一定の型にはめ，狭い意味での授業方法や授業技術の改善に終始しないよう留意しました。
「主体的・対話的で深い学び」の理念はかなり深く，手法だけでは本質を語ることはできません。全国すべての教室に当てはまる方法も初めから存在していません。ですから，１つの指導法に固執せず,「目的」や「生徒の学習状況」に合わせて柔軟に指導を工夫し続けることが大切です。

そのためには，本質を見据えなければいけません。

本研究及び研究を踏まえた本ガイドブックも今後の議論や提案の一つとして英語教育の推進に資するものであればと思っています。

最後になりましたが，研究推進にあたり奥州市立江刺第一中学校及び岩手県立岩泉高等学校には平成28 年度～29 年度の２年にわたってご協力をいただきありがとうございました。研究担当者による授業実践の機会をあたえていただきましたこと，研究・実践協力をいただきましたことに改めて深く感謝申し上げ結びといたします。

引用文献，参考文献及び参考 Web ページ

【引用文献】
・中央教育審議会教育課程企画特別部会外国語ワーキンググループ(2016)，『外国語ワーキンググループにおける審議の取りまとめ』p.10，資料２，資料８
・中央教育審議会教育課程企画特別部会(2016)，『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』p.15，pp.28-31，p.34，pp.49-52，pp.60-63，p.193-194，pp.196-197，p.200，概要 p.24，別添資料 p.72
・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会(2019)，『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）』p.6
・中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会（2019），『児童生徒の学習評価の在り方について（報告）の概要』p.3
・菅　正隆編著（2017），『平成 29 年改定　中学校教育課程実践講座　外国語』p.５，p.16，ぎょうせい
・文部科学省（2017)，『中学校学習指導要領』p.4，p.8，p.129
・文部科学省（2017)，『中学校学習指導要領解説　外国語編』pp.12-15，p.79
・文部科学省（2017)，『中学校学習指導要領解説　総則編』p.4
・文部科学省（2018)，『高等学校学習指導要領』p.18，p.216
・文部科学省（2018)，『高等学校学習指導要領解説　外国語編』p.16-17
・文部科学省（2019)，『小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知)』別紙４，別紙５
【参考文献】
・磯田貴道（2010)，『教科書の文章を活用する英語指導－授業を活性化する技 108－』，成美堂
・岩手県教育委員会（2016)，『岩手県中学校学習定着度状況調査』
・卯城祐司（2014)，『英語で教える英文法 ―場面で導入，活動で理解』，研究社
・太田　洋（2007)，『英語を教える 50 のポイント』，光村図書
・上山晋平（2016)，『授業が変わる！英語教師のためのアクティブ・ラーニングガイドブック』，明治図書
・胡子美由紀（2011)，『生徒を動かすマネジメント満載！英語授業ルール＆活動アイデア 35』，明治図書
・胡子美由紀（2016)，『生徒をアクティブ・ラーナーにする！英語で行う英語授業のルール&活動アイデア』，明治図書
・菅　正隆（2010)，『日本人の英語力　それを支える英語教育の現状』，開隆堂
・齋藤栄二（2015)，『「英語で授業」ここがポイント』，大修館書店
・染矢正一（2013)，『新版　教室英語表現辞典』，大修館書店
・髙橋一幸（2011)，『成長する英語教師―プロの教師の「初伝」から「奥伝」まで』，大修館書店
・巽　　徹（2016)，『アクティブ・ラーニングを位置づけた中学校英語科の授業プラン』，明治図書
・中央教育審議会教育課程企画特別部会(2016)，『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ』
・中央教育審議会教育課程企画特別部会(2016)，『幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』
・投野由起夫（2013)，『英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』，大修館書店
・西岡加名恵（2016)，『アクティブ・ラーニングをどう充実させるか　資質・能力を育てるパフォーマンス評価』，明治図書
・溝上慎一（2014)，『アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換』，東信堂
・村野井仁（2006)，『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』，大修館書店
・望月昭彦編著，久保田章，磐崎弘貞・卯城祐司著(2010)，『改訂版　新学習指導要領にもとづく英語科教育法』，大修館書店
・金子朝子・松浦伸和編著（2017），『中学校新学習指導要領の展開　外国語編』，明治図書
・菅　正隆編著（2017），『平成 29 年改定　中学校教育課程実践講座　外国語』，ぎょうせい
・中嶋洋一責任編集（2017)，『「プロ教師」に学ぶ真のアクティブ・ラーニング』，開隆堂
・文部科学省（2017)，『中学校学習指導要領解説　外国語編』
【参考 Web ページ】
・中嶋洋一（2011)，『バックワード・デザインによる「指導案改善」研修のすすめ－本気で，今の授業を変えたい人へ－（2011.5.07)』NPO 法人教育情報プロジェクト　英語教育東京フォーラム
http://www.e-prosjp.com/report/view/40（2016．８.25 閲覧）

研究協力校

岩手県立岩泉高等学校

研究協力員

小野寺　理　沙　　　奥州市立江刺第一中学校教諭

研究担当者

【平成 28～29 年度　研究担当者】

中　野　誉　史　　　岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事
寒河江　研　哉　　　岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事

【令和元年度版ガイドブック作成者】

中　野　誉　史　　　岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事
五十嵐　忠　義　　　岩手県立総合教育センター教科領域教育担当研修指導主事

令和元年度版　改訂版

資質・能力の「三つの柱」を総合的に育む授業づくりガイドブック

中学校・高等学校

外国語

発行　　岩手県立総合教育センター　教科領域教育担当
〒025-0395　岩手県花巻市北湯口２―82―１
TEL　0198―27―2735
発行日　令和元年 12 月